経済は感情で動く

著者名	マッテオ・モッテルリーニ	発行年	2008年
出版社名	紀伊國屋書店	ページ数	302ページ
値段	1,600円	ISBN	978-4314010474
コメント	こちらはイタリア仕込みの行動経済学。話題はほかの本ともかぶるけど、トピックごとにていねいに解説してあるのがメリット。 楽しい実験例が豊富なので、ついつい呑み会などで話したくなるけれど、度が過ぎてウザがられないように。これを「後悔回避 regret aversion」と申します。		

読者投稿欄

コメント登録

ペンネーム お勧め度	コメント			
	読んだ場所	読んだページ数（時間）	立ち読みポイント	投稿時間
kyk ☆☆☆	経済学の本ではあるが、人を動かすには表現方法を考えることが大切なのだと感じた。			
	全部	302P (120分)	全部	2010/08/18 15:29:17
かーたか ☆☆	授業でもやったので大体内容を知っていたというのもあったが、「はじめに」だけ読んだらもう分かった気になってしまった。なのでこれくらいで。			
	1-50	50P (20分)		2010/08/18 13:44:47
hk ☆☆☆☆	経済学を学んだことは、ほとんどない自分であったが授業でも取りあげられていたことから興味を持って読み始めた。 経済と感情という一見相反し、関わりがないように思われることをわかりやすく説明してあり、面白かった。			
	13-136	123P (80分)		2010/08/16 19:24:37
wax ☆☆☆☆	行動経済学の本。 当たり前のことをモデル化することが重要だと感じました。 これからは感情の操作みたいなのが重要になってくるかもしれません。			
	13-314ページ	302P (180分)		2010/08/11 01:29:14
chicken-run	経済に対する考え方を一変させてくれる本 経済というのは、その長い歴史とそれに伴い発展してきた複雑な理論や数式からパッと見とり付きにくそうに見えますが、どんなに難しくこねくり回しても所詮は人のすること、理性的な理論より			

☆☆☆☆☆	も本能的な感情の方が勝ることが多く、この本はそういった事例を数多く紹介してくれます。 経済を身近な存在に感じることが出来るようになりました。			
	全部	302P (150分)		2010/08/03 10:49:28

布団が敷いてある ☆☆	具体的な問いをいくつも出してわかりやすいと思いました. ただ，こういう場面ではこういう選択が普通（多数）なんだよ．のような書き方が気に入らなかった.			
	1-136	136P (90分)	特になし	2010/07/28 18:44:16

マカロニぺんぎん ☆☆☆☆	かつて授業の資料として一部が紹介されていたため、非常に読みやすく感じられました。興味深かった個所としては、合理性のモデルにおける「三本の枝」の話。立ち読みポイントでは、実際の人間の非合理性について分かりやすく書かれています。			
	13-131	118P (120分)	88-90	2010/07/13 01:44:26

ボム ☆☆☆☆	行動経済学の本も３冊目になるのでだいぶ読みやすくなりました。３冊の中でこれが一番分かりやすいかもしれない。 しかし、あまりに行動経済学脳になって世の中のことを疑いすぎて、この本のことも疑ってしまうようになった私は、もう何を信じていいのか分からない。。			
	20-135	115P (90分)	52-59	2010/07/06 11:52:09

くま ☆☆☆☆	時間が無くてあまり読めなかったので、 自分でも買いたいと思います。			
	1-40	40P (30分)		2010/06/29 12:31:21

asce ☆☆☆☆	タクシーの運ちゃんの行動パターンが、実に興味深かった。 イタリア人の性格から起こることかもしれないから、各国で調査すると面白いと思った。性格診断的な意味で。			
	13-136(part1)	124P (100分)	教訓	2010/06/29 11:46:36

Apollo ☆☆☆☆	人間は必ずしも、というか大体の場合経済的利益から考えると合理的な選択はできない、というのが簡単なクイズと共に実例でわかりやすく説明されています。 まあ所々うーん？、と思うようなとこもあると思いますが（私もある）、人間そんな単純じゃないってことで			
	1-72,104-194,210-246	210P (120分)		2010/06/22 12:46:41

chocolate ☆☆☆☆	授業でやって興味をもったので読みました。 少ししか読んでないけどやっぱりいおもしろい。			
	1-60	60P (40分)		2010/06/15 13:07:42

	目次からつまみ食いしました。 個人的にはプライスレスよりも読みやすかった。例の登場人物も日本人になってたりして。 やってしまったことを後悔するのか、それともやらなかったことを後悔するのか…馬券を買う時にいつも考えます。 予想を直前で変えて、変えなかったほうが良かったって方がイタイ。だから私は初志貫徹（堅め）。 わかりにくいと指摘があったので補足☆（文が下手ですみません）			

akilu ☆☆☆☆	＜例＞勝ちそうだと思った馬が5頭いるとする。これを馬連ボックスで買えば10通り。一口100円でも1000円。1レースに1000円て、ちょっと買いすぎ？ （i）そこで1頭切る。4頭なら6通り600円。 前年の勝ち馬マイネルキッツをマグレだったとし、切る。 [結果]マイネルキッツが2着…1着のジャガーメイルは買ってるのに…払い戻し0円 （ii）1頭切れない！5頭買う！10通り1000円 [結果]マイネルキッツが来ない…馬券もひとつも当たってない… やっぱり去年キッツが勝ったのはマグレだったんじゃねーか！だろうと思ったよ！（怒）払い戻し0円 （i）の方がマイナス小さいけど（i）の方が悔しさ大きめです。ちなみに事実は（i）です。			
	105-111,138-155,166-178,220-228	47P (40分)	各章の「教訓」	2010/06/08 18:04:50

g2oma ☆☆☆☆	経済学はいつも数字だとおもいましたが、 確かに経済は人の心理なしには動かないですね。 いつまで自然にしたことを、このように説明していると、 悩みチャいますね！			
	13-46,247-261	47P (30分)	13-18	2010/06/01 09:41:22

橘 ☆☆☆☆	「７０％の生徒が自分にはリーダーシップの能力が平均以上にあると答え、…」 この前の「自分の役割＝ファシリテータ」と答えた人はずっと割合が低かったような… 東工大生は控えめなのかな？ｗ あえて自分にとって耳が痛いものをかいつまんでみました。 「いいことが起きた時は自分のおかげ。 悪いことが起きた時は他人・環境とかのせいにしたがる。」 「人は見たいものだけをみる。 自分を肯定する言葉を必死になって探し、 否定する言葉には耳をふさぐ」 まさに研究なんてそうしてしまいがちだったり。。。反省。			
	はじめに・10 知ってるつもり・17 理性より感情がものを言う・18 人間的な、あまりに人間的なわれわれの脳	70P (60分)	176・179ページ	2010/05/31 13:30:28

ｃnd ☆☆☆☆	授業で扱って、面白いなと思ったので読みました。 うーん確かに現実世界で常に合理的には動いてないな、と気付かされた一冊です。			
	1-246	246P (120分)		2010/05/25 12:59:57

どかべん太郎 ☆☆☆☆	自分の行動・選択がいかに不合理であったかを思い知った。 今度買い物に行くときは気をつけよう。			
	1-136	136P (80分)	教訓	2010/05/25 12:28:00

Coppet ☆☆☆☆	「はじめての行動経済学」という副題の通り、行動経済学に初めて触れる自分でもすんなりと入れたし、わかりやすかった。 様々な有名（と思われる）現象を身近な例を用いて問題形式にしている点が良い。 こんなふうに自分が行動を選択する際にどういう判断をしているのかを客観的に見ることが出来れば、もっと賢く生きられるんだろうな。 読んで損はないと思う一冊。			
	1-136ページ	136P (80分)	各「教訓」	2010/05/25 00:44:16

rs ☆☆☆☆☆	文章にあるクイズに思わず引っかかってしまうものもあれば、全然逆の行動をしてしまうこともあって、あまり納得いかない場所もありましたが、全体的には面白かったです。 特に、真中の値段を選びやすいというのは面白いと思った。			
	全部	302P (300分)		2010/05/18 19:30:02

ushiushi ☆☆☆☆☆	クイズ形式で身近な話題を取り上げていて共感できる。経済初心者でも心おきなく読める。おもしろい。 クイズにひっかけられたことを考えると、消費者側としていろいろなことでだまされているような気がしてきた。まあ今回は自分が知らないということを知ったということで良。			
	1-316	316P (350分)	137-218	2010/05/14 13:43:36

くらげ ☆☆☆☆☆	経済の本なんて生まれて初めて読んだけど、これなら私でも余裕で楽しめる！面白い！ いかに私たちが非合理的な行動をしてるか、具体的な質問形式で自覚させてくれました。 ちなみに私は305-306ページのクイズを１問間違えた。簡単な問題なのに、全問正解率は20%(ただしMITの学生は48%！)らしいですよ。お試しあれ。 各節の最後に教訓が載ってますが、どうせならもうちょっと要約に近い内容にしてほしかったな。 そしたら濫読もしやすいし。 しかし普通の経済学をやる前に行動経済学の本を読んでしまった。 こうなると普通の経済学の本を読んでも、素直に読めなさそうだ。 まとめると 行動経済学入門書×クイズ形式＝ただの蘊蓄本 ですかね。			
	1-72、137-185、219-261、300-316	181P (120分)	305-306	2010/05/12 17:28:59

ふり太郎 ☆☆☆☆	冷静であるためには感情を切り捨てた判断が必要とは言いますが、この本で、感情が結びついてなければ、記憶には結びつかず、その結果正しい判断を行うための知識にはなり得ない、ということはすごい勉強になりました。各章の最後に「教訓」としてポイントがまとめられているので、頭を整理して読んでいけます。			
	全部	314P (240分)	262-272ページ	2010/05/07 18:33:59

ぼるてぃー ☆☆☆☆	『経済は感情で動く』って普通のことですよね、ちゃんと考えれば。感情なくして人間ではないから。各トピックの最後に出てくる「教訓」が秀逸です。ここだけ読めば、全体像が掴めます。			
	262-299	38P (40分)	279	2010/04/30 17:55:25

江戸川 ☆☆☆	80冊のうち30冊読まなくてはいけない。 80冊のうち50冊は読まなくともいい。 あなたはどちらの提案に惹かれますか？ こういったクイズが多数出題されるので話のネタを探す人にはいいかも。 あとがきの認知思考テスト(上記立ち読みポイント)はぜひトライして、 あなたがマサチューセッツ工科大学の学生側か一般人側か判別して欲しいかも。			
	13-314ページ	302P (300分)	305-313ページ	2010/04/30 16:15:28

1412	パート３での、判断における理性と感情の影響を脳科学の観点から見るというのが面白かった。 全体的に広く浅くという感じで、少し物足りなかった。			

☆☆☆	1-302	302P (240分)		2010/04/28 12:17:23

つばくろう ☆☆☆☆☆	経済学では人が合理的に行動することを前提にすることが多いが、実社会では人は感情に流され合理的に行動できないことが多々ある。 そのことをたくさんの例を使って説明している。 とてもわかりやすい例で確かに自分も全然合理的に動いていないなと気づかされるとても面白い本。 「自分で稼いだ一万円と降ってわいて出たような一万円では同じ一万円でも全然使い方が違ってくる」とあるが正にその通りである。			
	1-316	316P (350分)	パート１、２	2010/04/22 23:06:55

忍者 ☆☆☆☆	身近なところから、人間は感情によって合理的でない行動をとることがしめされていたのでとても興味深かった。 保有効果、サンクコストの過大視など言葉は難しそうだが、日常おいてありふれた現象であることがわかった。 経済学は万能だ！崇めよ！とか思っている人にはいいんゃないか 実際どのように感情のバイアスを経済学に持ち込むか問題で、脳科学による研究が載せてあったが、まだまだ発展途上であると感じた。			
	すべて	316P (300分)	73-94、105-111	2010/04/20 18:37:31

みぃたん ☆☆☆☆☆	とても面白かった！ 自分が買い物するとき、どれだけ錯覚に騙されてるか、実感させられた。これからはもっとお金を大事にしていけると思います。 友人に話したくなるような面白い内容が詰まっていました。心理学や脳化学の勉強にもなり、とても興味深い内容でした。			
	全部	302P (500分)	1章	2010/04/20 09:31:22

TOPへ

ヤバい経済学

著者名	スティーヴン・レヴィット&スティーヴン・J・ダブナー	発行年	2007年
出版社名	東洋経済新報社	ページ数	379ページ
値段	2,000円	ISBN	978-4492313787
コメント	行動経済学系の本のなかでも、人ひとりの行動でなく、社会全体の構造をマナイタに乗せて料理しているところが特徴です。犯罪の発生率の劇的減少を中絶の合法化から説明する、というように。 ひとつのテーマの掘り下げがそこそこ深くて、あまりコマギレでないのもGOOD。そして、語り口の軽やかさは、さすがベストセラー。		

読者投稿欄

コメント登録

ペンネーム お勧め度	コメント			
	読んだ場所	読んだページ数（時間）	立ち読みポイント	投稿時間
kyk ☆☆☆	経済学は近寄りがたい感じだったが、やはり面白い切り口をあたえて貰うと面白い。 題名によって、経済に対する近寄りがたさが緩和される。			
	全部	379P (120分)	全部	2010/08/18 15:33:14
鍋工房 ☆☆☆☆☆	「ヤバい」というよりも「無慈悲」という言葉があってる気がします。 僕がタイトルを付けるとしたら、「無慈悲な経済学」あるいは「計量は無慈悲な経済学の女王」といったところでしょうか。			
	all	379P (350分)		2010/08/18 02:43:57
nao ☆☆☆☆	題名が気になって読んだ。事例が面白く読みやすかった。４章のような分析はなかなかできないと思う。			
	1－379	379P (300分)	４章	2010/08/17 13:35:20
まー ☆☆☆☆	行動経済学に興味を惹かれて読み始めた。 完璧な子育てとは？ 犯罪者はみんなどこへ消えた？ など興味をひかれる題材が多く、楽しみながら読めた。			
	1-252	252P (200分)	137-172	2010/08/06 14:50:26
	確かに文はくだけてて読みづらいところもあったけど（ヤバさをだしてるんだろうな）、最後まで			

ushiushi ☆☆☆☆	読んでよかった。 筆者が分野にとらわれず、数字をたよりに偏見にとらわれず（モラルも無視）問題を分析している姿勢が私は好きでした。			
	すべて	379P (400分)		2010/07/25 11:56:32

g2oma ☆☆☆	文章がやばい。英語の本を読んでみたい。子育てに対しては…まあまあの内容。			
	173-255	82P (100分)	.	2010/07/15 10:30:09

上場亮 ☆☆☆	自分の子どもに英才教育をしたいわけではないので、特に役立てようとはおもわなかった。			
	213-255	42P (30分)	219	2010/07/06 13:05:24

an ☆☆☆☆☆	犯罪者はどこへ消えたのか？ 著者の説明は、確かにモラル的にどうかということはあるが、一般的な「取り締まりが上手くいった」とか「好景気だった」とかよりはるかに納得がいくような気がした。			
	序章、４章	54P (45分)	４章	2010/07/06 11:42:36

橘 ☆☆☆☆	洋書を翻訳したもののタイトルって，どーしてこんなにちょっとずれてるんだろう， ってこの頃思ってます．「たまたま」とかって．．． さて，自分にとっては結構面白かった，というよりは読みやすかったです． 難しいことを難しく書いてないので． 「へー．」って感じで読みました． 話題本になってるから，期待しすぎちゃうと評価が下がっちゃうのかな？ 「ヤバい」とまでは行かなくても，「チョイ悪」な経済学として， 読んでみてはいかがでしょうか？			
	序章，１章，終章	65P (60分)		2010/06/18 17:18:16

江戸川 ☆☆☆	ヤバいとあるけれどもそんなにヤバいかこれ？といった内容。 わかりやすい文章でむつかしくもない内容なのでだらだら読むのがいいかもしれない。 348ページの表を見るとstataを思い出します。			
	全部	379P (240分)	348ページ	2010/05/28 12:49:12

WHISKYMAN ☆☆	社会におけるいろんな話を題材にしてデータを集め数値を分析し、通念をひっくり返す。こういう経済学の切り口もあるのだなと知れたが…個人的に、あまり興味を魅かれた内容がなかったのが残念。			
	1-135	135P (80分)		2010/05/23 17:07:32

komu ☆☆	興味をそそられる内容ではなく、文章が回りくどいのでのであまり読みませんでした。			
	19-59	31P (20分)		2010/05/18 11:59:33

mnts	題名の通り多少モラル面で問題のある観点も含めつつ、様々な題材について経済学的に解説をしてくれている１冊。この本に書いてあることをすべて鵜呑みにするのはよくないと思うが、普段その理由をさぐろうとすらしないようなことについて解説がなされているのでなかなかおもしろかった。 ただアメリカの話なので馴染みの無い点が多く、アメリカ在中の方が読むほどには面白く感じられ

☆☆☆☆	ないだろうというところが残念。日本版を読みたいところ。 大分やさしめな解説と文体なので、この系統の本にしては流し読みがしやすい点は○。			
	19-252	234P (70分)		2010/05/16 19:19:57

スズキ ☆☆☆	少し前によく本屋に並んでた本だ．当時から気になっていたので，隣人の評価が低いにもかかわらず読んでみた． が、別にそんなに悪いということもなく，フレームワークも普段使っているのと同じようなものだったので，思考の整理になった．…これがアンカリング効果というやつ？ 一つだけいいと思った言葉がある．子供の成績と親の特性の関係を調査した節でかいてあった，子供の成績と関係があるのは，親が子供に対して「何をするか」ではなく親が「どんな人か」ということである，という内容．様々な媒介効果があるのだろうが，この切り方は面白かった．			
	1-60,173-212	101P (80分)	173-212	2010/04/23 21:41:59

忍者 ☆☆	アメリカ人が読んだら面白いって思うんだろうな、という本だった。 僕は共感ができなくて、面白く感じませんですた。			
	1-265	265P (300分)	なし	2010/04/22 12:36:53

maaa ☆☆☆	経済学とタイトルに入っているが、難しい内容ではなく、気軽に読むことができた。			
	1-255	255P (260分)	1-5	2010/04/19 14:37:37

TOPへ

なぜ人は市場に踊らされるのか？

著者名	竹中正治	発行年	2010年
出版社名	日本経済新聞出版社	ページ数	231ページ
値段	1,575円	ISBN	978-4532354091
コメント	踊っちゃダメなんて、そんなヤボなことは言ってません。むしろ、しくみを知って正しく楽しく踊りましょうメッセージと読みました。 ベビーシッター組合（121＆133ページ）とか花見酒（162ページ）とか、定番のたとえ話をじょうずにアレンジしつつ、巷に流布している半可通理解を一刺し。 先行き不安でみんながお金を貯め込んじゃうからデフレになるんだ、じゃあエコポイントで特産品配布なんてケチなことをせず、ゲンナマをどんどん刷っちゃえば？ と説くマネー増発論（129ページ、ただしもっとマジメテイストで書いてあります）がとりわけ新鮮でした。そっか、じゃあ江戸時代の貨幣改鋳も景気刺激策だったのかも、とさっそく自らのフィールドへの応用を試みる影響されやすい山室なのでありました。		

読者投稿欄

コメント登録

ペンネーム お勧め度	コメント			
	読んだ場所	読んだページ数（時間）	立ち読みポイント	投稿時間
みぃたん ☆☆	序章のバイオリニストの話やハロウィーンの逸話などは、「へー」って面白く読めましたが、その後が、いまいち何を言いたいのか掴めませんでした。減価償却とかの説明もあったから、ちゃんと読めたら経済のお勉強になったのかなぁ。			
	1-40	40P (60分)		2010/08/24 09:50:08
布団が敷いてある ☆☆☆	お勧めされていた最後の章だけ読んでみました. この本がいいたいことがこの数ページのあいだでなんとなくわかるような気がしました.			
	234-240	7P (5分)		2010/08/16 17:57:51
Coppet ☆☆☆	パッと見、タイトルから行動経済学の本なのかという印象をうけたが、読んでみるとそうでもない感じだった。ちょっと新鮮な気分。 バランスシートの見方がわかりやすくてよかった。			
	序論- ２章、６章-終章	121P (80分)	6章	2010/07/27 17:07:27
なかま ☆☆	ditherman さんのリンク見てみました。楽しかった！ありがとうございました。フランス人は、あまのじゃくってこと？？ 子供の反応を見るのが、一番ってことがわかりました。 それから、もし営業担当になったら、「みなさん、そうされていますよ」をうまく使おうと思いました。			

	序章、2章、終章	53P (30分)	10-14	2010/07/20 18:45:31

ditherman ☆	内容は斬新ではないが，新鮮で，時々筆者が毒を吐くので，読んでいて面白かった．「30分でわかる○○○」≒「地下鉄の通路で演奏している三流ミュージシャン」という例えはなるほどと頷いてしまった． 終章の「みなさんそうされていますよ」は沈没船のジョークとしてよく聞くが，独米伊への言葉は，偏見混じりすぎだろと思いつつも，反論できず．続きを見つけたので，リンクからどうぞ(http://blog.goo.ne.jp/ykimata/e/60c9a22f54f925ee6deeeac7d7f3e710)．中国と朝鮮でいつも笑ってしまう． 自身，経済のド素人なのでグラフや表の見方が少し難しかった．			
	全部	231P (250分)	なし	2010/07/16 22:17:09

橘 ☆☆☆	株とかFXとかに興味がある方に、 「これで儲かるFX！」とかを読む前に読んで欲しい本、かな？ 「楽にもうかる話なんてない。 そんなものあったら、みんなが殺到するに決まってる。 そしたらバランスが崩れるでしょ？」っていう話みたいです。 金融派生商品を悪くいうわけではモチロンないんだけれど、 ときどきそれが「沈黙の春」の合成殺虫剤に思えたり。 もともとないものを人工的に作り出すことによって、 平衡状態が乱されてしまうという意味で。			
	序章・終章	20P (30分)	うーん。	2010/07/11 08:46:59

くらげ ☆☆☆	バイオリン弾きの実験や出版業界を例にして、私たちがいかに先入観に支配されているかという話からこの本はスタートするわけだが、「その結論、あまりに性急すぎやしないか？」と感じ、そのあとを読む気がなくなってしまった。 竹中さん、ごめんなさい。 「序章が納得できない本は、本編で感動できるはずがない」 という先入観に囚われてるんで。			
	1-33	33P (20分)	?	2010/06/29 16:28:10

ぼくらのコブラ ☆☆☆☆	時間がなく、触りだけになってしまいました しかし先入観に囚われすぎない柔軟な思考、このことがキーであることが重要であり、このことは忘れがちなことだが多くのことに言えることだなと感じました			
	ところどころ	30P (30分)	ごめんなさい	2010/06/17 23:43:46

atom ☆☆☆☆	時間がなかったので、目次で気になった終章『「みなさん、そうされていますよ」という呪縛から目を覚まそう』だけ読んだ。女優の岸さんの話であったり、日本人は「みなさん、そうされています」に弱いという話は自分自身の意思をしっかり持とうという意識を改めて持たされた。			
	233-240	8P (30分)		2010/06/08 20:16:54

ushiushi ☆☆☆☆	経済の難しい話は何となく理解した程度だが、人間の行動を踏まえた経済の動きを理解するのに自分にはちょうど良いレベルの本だった。 具体的な策も語られていて参考になった。			
	すべて	243P (240分)	51-118	2010/06/08 12:47:06

ukayare ☆☆☆	踊る阿呆にみる阿呆、同じ阿呆ならおどらにゃ損損。 アメリカは見事に踊って００年代後半に崖から転落しまし、日本は前に踊って落ちたことがあるんで崖のほうにはいかず落ちずに済みましたとさ、というがメインの話。 まあ００年代のあの一件でアメリカに対するアンチエコノミズム（モダンエコノミズム？）の主張が多いこと多いこと。お前ら前までアメリカ様と崇めてたんじゃないの？こういう意志先導はいかがなものなんだろうか。しかしこういう類の本はよく売れるんですよねえ。やっぱり人間は批判が大好きなんですね、わかります。 しかしみんなずっと阿呆のままなら崖があっても延々とその先の空中で踊り続けるんだろうな。そういう阿呆に私はなりた…いのかなあ？ 余談：電灯に続いて今度はiPodが故障だと…？			
	全部	231P (180分)	終章	2010/05/27 15:10:14

chocolate ☆☆☆	経済に関してはほっとんど無知ですが、最近の話題がいっぱいあって完全に理解はできてないけど、なんとなく分かりました。 社会に出る前に自己判断できるくらいの経済、金融の知識を持たなくちゃって思っている人にはきっとよい本です。			
	1-240	240P (260分)	234-240	2010/05/21 18:37:52

mnts ☆☆☆	ニュースになった経済危機についてわかりやすく解説してくれているので、新聞やテレビで問題の内容については知っているけど具体的なメカニズムは知らないという場合には良い本。（後半は読んでないのでもしかしたら違う内容かもしれない。） 読んでおいて損はないと思う。今回は途中で飽きてしまったが、時間があれば後日続きを読みたい。			
	10-83	72P (60分)		2010/05/16 19:42:39

Unknown ☆☆☆☆	近年の経済危機を用いて、経済学の考え方をどのように利用し解釈するか、そしてバランスシートをどのように見るかを説明してくれる。 マネー資本主義は悪であると繰り返し批判するマスコミの言葉を鵜呑みにするのではなく、この本を読んで経済危機の本質を理解してほしい。			
	3,4章以外	157P (60分)		2010/05/11 00:12:03

WHISKYMAN ☆☆☆	市場の仕組みやその中での人の行動特性、そして賢く生きるための心構えなどについて書かれている。つまみ食い的に序章、２章、３章、終章だけ読んでみたが、時に非常にわかりやすい例を挙げてくれるので親しみやすい。個人的には、アリの行動パターンを見て市場の動きを理解しようとするアリモデルと、組織の意思決定における暴走を生む理由について述べられた３章の冒頭が印象に残った。			
	9-22,51-118,233-240ページ	90P (120分)	86-97	2010/04/26 21:14:14

弟子 ☆☆☆	本は古いものだという先入観からか、最新の話題を本から振られると一瞬だけびっくりしてしまう。 端的にいえば、「なぜ人は市場に踊らさせるのか」という「わかりやすい物語」である。あるいはこの本を読んで「なぜ人はこの本に踊らされるのか」と言い換えることができるのかもしれない。 確かに昨今の経済事情・政策を端的に、特にマクロ経済学を含めた視点から切り崩している点は読んでいて面白い。が、素直に共感できるかどうかとは別である。 序章に「ハリーポッター」シリーズの著者であるJ.K.ローリング氏を例に出し「被生活保護者の女性だから出版社は彼女の持ち込んだ本の内容に目もくれ無かった」「出版社であっても著者の肩書という先入観に踊らされている」と批判するところからこの本は始まっていくのだが、私は肩書とい			

	うのはそのためにあるのではないだろうかと懐疑的にこの本のページを開いてしまった。学歴という肩書が得られないのであれば大学なんてな場所に人は来ないように、肩書というわかりやすいスタートラインを明示してくれるシステムをないがしろにして「本の中身で勝負してください」という曲目に踊っているのは、出版社なのか、それを批判する著者なのか、あるいはこの本を読む人間なのか。 もちろん、スタートラインに登れば誰であれ評価の対象としてみなしてもらえるこの社会というシステムは、私のお気に入りではあるが。			
	10-83 120-158	113P (60分)	とりあえず序章から	2010/04/20 12:24:14

つばくろう ☆☆☆	最近起きた経済危機についてそれが起きたメカニズムを解説している。 図や表をたくさん使いわかりやすく説明してくれていたので経済学初心者にも読みやすい本であった。			
	1-240	240P (350分)	93-96	2010/04/19 20:55:36

TOPへ

大相撲の経済学

著者名	中島隆信	発行年	2008年
出版社名	ちくま文庫	ページ数	237ページ
値段	680円	ISBN	978-4480424280
コメント	相撲協会とは、これすなわち250年も続いている格闘技ビジネスのシステムなり。 実力主義なのに年功序列。神とも崇められているはずの貴重な横綱の給料はたった282万円。年寄株に八百長と数々の特殊性に彩られたこの相撲産業を経済学の視点で分析すると、さてどうなるか。		

読者投稿欄

コメント登録

ペンネーム お勧め度	コメント			
	読んだ場所	読んだページ数（時間）	立ち読みポイント	投稿時間
栃木のイベンター ☆☆☆	普段気になっているところだけつまみ食いしてみた．最近相撲界がすごく荒れていて問題になっているが，この本では数年前に問題になっていたことがすごくわかりやすく読めたのでよかった．			
	第6,8章	40P (20分)	第6章	2010/08/15 16:02:26
ひまじん ☆☆☆	閉鎖的な相撲界も意外と合理的であることがわかった。 “相撲”という競技としての文化は大切にしたいが、“相撲界”の文化は多くの点で見直す必要があるのではないかと思った。			
	序,1,2,4,5,6,11,終,補 章	150P (150分)	６章	2010/08/14 04:42:02
オレンジ ☆☆☆☆	経済学と言えるほど数学を大して使ってるわけでもなく、かなり読みやすい本です。 たびたび話題になる八百長や外国人力士、横審の話も明確に書かれていて分かりやすかったです。 個人的には結構相撲が好きなので、伝統芸能としての相撲の今後の発展に期待したいです。			
	全て	237P (130分)		2010/07/20 16:38:19
yuigawa ☆☆☆☆☆	期待してたより（相撲には興味があったのでもともと期待してたんだけど）ずっと読み応えがあって勉強になる本だった。 相撲世界に関連づけられて展開された『サンプル・セレクション・バイアス』や『インセンティブ・コンパティビリティの条件』といった考え方は他にも汎用性があるのが感じ取れるし、知らない世界のことをそうした道具によって紐解かれていくのを実感できるのは爽快だった。 第8章において、さまざまなメディア上でさも当然のようにして語られる『外国人力士』問題のあれこれをすぱすぱと歯切れよく論じらていく様がひどく印象的だった。 また、相撲取りという人的資本の特殊性について語られている箇所ではもっと多くの人間が伝統文化に直結するこの問題について知り、取り組まなくてはならないのだと考えさせられた。			
	全部	237P (80分)	75-88 153-160	2010/07/19 21:03:30

Solar ☆☆☆☆	皆さんが既に言っているように、八百長に関する記述はぜひ一読してほしい。 八百長＝絶対悪、の公式が成立するかどうかは人それぞれだが、筆者の意見には納得できるものがある。 もう1つ、引退力士について。 引退→親方、というのは他のプロスポーツとは一線を画していることは知っていたが、その原因について考えたことがなかった。 「中卒」という学歴が重くのしかかっている、茨の道なんだなぁ。			
	ぜんぶ。	270P (130分)	4章・6章	2010/07/13 12:55:53

たざわ ☆☆	相撲は、最近の様々な不祥事を見てるとなくなりそうな気もする。 値段が高いけど、早いうちに観戦しにいこうと思った。			
	111-129,147-199	62P (45分)		2010/06/26 02:07:33

1412 ☆☆☆☆☆	伝統芸能としての相撲は、現在の社会と摩擦を生じているようだ。他の伝統芸能がどうなのか気になった。			
	1-237	237P (180分)		2010/06/24 12:52:11

ditherman ☆☆☆☆☆	内容だけ見れば，文句なしの5つ星. 今回のブックリストの中でもトップ5に入る面白さだと思う. タイトル，表紙からは想像されないほど，面白みのある題材を扱っていた. ケース別の八百長のモデル化など，一般向けに書かれた本で，類似の内容のものを探すのは難しいだろう. マシュ氏は題名に惹かれたとコメントしているが，それほどでもない気がする. 題名と表紙の改善をして，ハードカバーにすれば，本書の価値は10倍上がると予想されるだけに，惜しい存在.			
	全部	237P (250分)	全部	2010/06/23 22:52:32

溪華 ☆☆☆	最近不祥事で目立つ事の多い相撲界だけれど、その中身を実は何も知らない。でも、考えて見ると、中卒程度の少年が、家を出て相撲部屋に弟子入りし、毎日毎日稽古をし、部屋の家族として暮らし、いつかは登りつめる、というシステムがずっと続いてきたこと、またそんなシステムが成り立っていることは、現代社会ではとても不思議に思える。そこには伝統や儀式的要素だけではなく、合理的に働いているシステムがあるように感じた。 夕方NHKで放映されていて、おじいちゃんたちが楽しみにしている、今まで当たり前だった、でも不思議な世界を覗かせてくれた本です。			
	すべて	237P (240分)	95-110	2010/06/21 18:04:59

マシュ ☆☆☆☆	題名に惹かれて読んでみたが、予想外にかなり面白かった。 あまり知らない相撲界のことが良く分かったし、八百長の章はかなり納得させられてしまった。			
	all	251P (200分)	111-128	2010/06/07 20:45:13

ぼくらのコブラ ☆☆☆	相撲に関する知識がなくてもすらすら読めました。 各界の仕組みは意外と複雑なんだな・・・ 他には八百長を数式を持ち込んで、考えているあたりが“まじめか”			
	1-247	247P (230分)	相撲部屋の仕組みのところ	2010/06/07 14:35:45

an ☆☆☆☆	まさか、八百長をモデル化するなんてwww シンプルでどこか納得させられてしまう。。 面白いです。			
	pp95-pp130、pp167-pp180	58P (35分)	6章	2010/06/01 12:50:00

Apollo ☆☆☆☆	専門用語だらけの相撲界の様々なルールを噛み砕いて説明しつつ経済学の視点からの考察がなされています。 相撲界が閉鎖的ながら完成されたシステムを持っていること、そしてそのシステムが抱える問題点がわかりやすく説明されているので、昨今の相撲界の動きもバッチリです。			
	1-251	251P (100分)		2010/05/24 12:43:21

ushiushi ☆☆☆☆	経済学と相撲どちらかを知ってるともう片方がとらえやすくなって面白い。 自分は相撲のことは知ってたので経済の人たちがどんなことを考えてるのか少しわかった。相撲のことも知識が深まったので楽しかった。 朝青竜がなぜ問題児なのかがわかりやすく解説されてます。			
	1-247	247P (260分)		2010/04/21 17:40:02

かずT ☆☆☆☆	閉鎖的な相撲界の概要が分かる本. 相撲界での出世，給与待遇，力士の生活などを一般社会での認識と比較し，それらは特異ではあるが経済学的にも合理的であることを示している. 平成20年に出版された本で，昨今の八百長，角界の不祥事についても触れられている. 相撲界の内情を知ることができ興味深い.			
	15-94，111-130	104P (60分)	111-130	2010/04/14 15:11:22

TOPへ

最底辺の１０億人

著者名	ポール・コリアー	発行年	2008年
出版社名	日経BP社	ページ数	310ページ
値段	2,310円	ISBN	978-4822246747
コメント	ボトム・ビリオン。世界がかかえる危険なダークサイド。 そこに、データ分析に基づいた政治学で斬り込む。できごとを観察して叙述する従来型スタイルではなく、所得水準と内戦の起こりやすさとの関係、資源の多寡と政権の透明度との関係などなど、各国の諸要素を変数と置いて統計化し、慎重に緻密に、相関関係や因果関係をあぶりだしてゆく。 へぇぇ、こんなことができるんだ、とそのユニークな太刀さばきにひたすら見入ってしまう。地味なつくりの本だけど、方法論と結論の両方がきっちり書かれているのもマル。 熱いスピリットとクールな分析。山室的今期のイチオシ！		

読者投稿欄

コメント登録

ペンネーム お勧め度	コメント			
	読んだ場所	読んだページ数（時間）	立ち読みポイント	投稿時間
Solar ☆☆☆☆	内陸国であるがゆえに。——— 日本にいれば想像もできないような(日本にも内陸県はあるけれども)、アフリカ内陸国が抱える罠。 発展が阻害される理由は「アフリカだから」ではないことを再認識しました。			
	90-126	37P (60分)	4章をぜひ。	2010/08/08 15:36:33
k.k.t ☆☆☆☆☆	タイトルはなかなか強烈だが、内容もそれに負けずに強烈である。 最底辺の10億人の国はなぜ中国やインドのようになれないのか？それがこの本のテーマである。 これらの国は紛争の罠、天然資源の罠、内陸国の罠、悪いガバナンスの罠などの罠にはまって抜け出せないでいるのである。 特に強烈に興味深いのは内陸国の罠であり、この罠はただその国が海に面していないというだけで輸出に関して隣国に頼らなくてはならず、その隣国も何かしらの罠にはまっているとするとこの事態を打開するのが大変困難になるというものである。これほど理不尽な罠は無いのでは。 筆者はこの開発経済学の分野で定量的な論文をたくさん書いており、かつ因果の特定を行おうという態度が素晴らしいと思う。それは何が原因なのかを調べることで何をすればいいのかが初めてわかるためであり、それが特にこの分野で求められているからである。 僕もこのようなテーマで論文を書きたくなった。修論はこれしかない！			
	全部	319P (400分)	第一部と第二部	2010/05/30 19:19:17
atom	貧困を生み出す4つの罠（紛争の罠、天然資源の罠、内陸国の罠、小国における悪いガバナンスの罠）を挙げ、それらに対する解決策を提示している。単にお金をあげてればいいというわけではな			

☆☆☆	いというのが勉強になった。			
	31-126	96P (40分)		2010/05/18 10:16:17

nao ☆☆	アフリカの問題点を解説→解決策の提示と進む本ですが、文章がくどくて、途中でギブアップでした。最後まで読めば違ったのかも…機会があればまた挑戦したいです。			
	1-100	100P (90分)	66-89	2010/05/18 10:01:39

上場亮 ☆☆☆☆	日本で生まれ、日本で育った私たちはアフリカなどの貧困に苦しむ人たちの状況をは肌で感じることはできない。しかしこの本では現状を詳しく模写している上、因果関係を明らかにし、原因に対応する策を探している。この社会工学的な本はお勧めです！！			
	全部	310P (180分)	285ページ	2010/05/02 02:04:08

TOPへ

民主主義がアフリカ経済を殺す

著者名	ポール・コリアー	発行年	2010年
出版社名	日経BP社	ページ数	306ページ
値段	2,310円	ISBN	978-4822247874
コメント	原題：Wars,Guns,and Votes――この本の乾いた殺伐さをよく体現している。 ボトム・ビリオン続編。アフリカ特論といったところ。 世界のダークサイドはどこ？ 314-5ページに掲げられた国名リストだけでも見ておきたい。		

読者投稿欄

コメント登録

ペンネーム お勧め度	コメント			
	読んだ場所	読んだページ数（時間）	立ち読みポイント	投稿時間
an ☆☆	読むの辛くて、途中で断念してしまった。。 最底辺の国の民主主義（？）とは何かというのをつらつら書いています。文字ばっかです。			
	序章、第一部	134P (90分)		2010/07/06 11:55:47
ろしあ ☆☆	長々と議論を重ねているが、、いまいち説得力がない。 いろいろ調査をした結果の主張だと思うが、具体的なデータや図表を示してもらえないとなんだかわかりにくい。			
	1-69, 186,205	89P (60分)		2010/07/05 21:30:53
くらげ ☆☆	はじめから読んでいったら「早く本題と結論に入れや！」と思ってしまい、最後から読んでみたけどそれでも良く分からなかった。なんでだろう…。 全十章だけど、その中で小題に分かれてたらもっと読みやすいんじゃないかと思ったり。 ともかくとして、私には難しすぎたんじゃないかと…。 アフリカ事情の知識に乏しすぎ？			
	1-52,138-149,302-315	78P (60分)	?	2010/06/17 16:56:28
1412 ☆☆☆	本の内容はおもしろいと思ったが自分の気力がもたなかった。			
	1-69	69P (60分)		2010/06/07 12:31:36
	『同等量の「安全」と「食糧」がある場合、あなたならどちらを選びますか』			

弟子 ☆☆	「そんなの、違うもの同士だから比較できるわけがない」と答えるようであれば、あなたには経済学は向いていない。それ以外のジャンルの本で２０冊を濫読することをお勧めする。 優先順位の問題なのだ。パンが食べれない経済状況下においてお菓子を食べようと思う思考過程が滑稽と捉えられる様に、地球の辺境に住む私達日本人にとって、アフリカにおける『物事の優先順位が逆転した状態』は一種奇妙に映ってしまう。安全と引き換えの食糧がいくらであり、選考はどちらがどの基準でより重みづけされるべきなのか、経済は、軍事力は、政体は。選択肢は無数にあるけれど、選択回数は有限である。 選択肢を潰すこともまた問題の解決とはなりえないことも付け加えておこう。食糧支援というのは単純に「食糧」という選択肢を削ることで他の選択肢への誘導を促すだけであり、優先順位の問題は何一つ解決されはしない。 トワイエ、人類が平和になる方法を説くよりは遥かに分別を弁えている気がする。それをステレオタイプのエントリーシートとするならば、この本は解答編の付いてこなかった問題集みたいであると思ってみたり。			
	138-159 222-247	48P (20分)	第4章	2010/06/01 00:49:33

ばっは ☆☆	なかなか主張の強い本。個人的には好きになれなかった。 どこか淡々とした考え方がこちらに著者の熱意を感じさせない。タイトルの割には視線が第三者すぎる。 文章自体も論文チックに書かれすぎていて、事実や考えを淡々と伝えるだけで、このようなテーマを扱うにはパンチが足りない。 ビールを飲みたいと思って取ったら発泡酒だった残念さ			
	166-210	45P (30分)	始めから読んだほうがいいかも...	2010/05/03 16:19:17

ＴＯＰへ

世界を変えるデザイン

著者名	シンシア・スミス	発行年	2009年
出版社名	英治出版	ページ数	218ページ
値段	2,100円	ISBN	978-4862760586
コメント	カラシニコフが勝ったのは？ 安くて壊れにくくて、しろうとでも扱いが簡単で、そして必要だったから！ じゃあ、安くて壊れにくくて扱いが簡単で、みんなが必要としてるモノを作ろうじゃないか。織物みたいな携帯光源はどうだろう。素焼きの壺を二重にして間に水を張ればトマトが21日間保存できるよ(ポットインポット・クーラー）。そうやって、いろんな熱意が、使命感が、ものつくりスピリットが、ただいま試行錯誤のまっさいちゅう。 水は運ぶより転がしたほうがラクだよ。がんばれQドラム！（110ページ）		

読者投稿欄

コメント登録

ペンネーム お勧め度	コメント			
	読んだ場所	読んだページ数（時間）	立ち読みポイント	投稿時間
かーたか ☆☆	「残り90%のためのデザイン」 私は学部時代に建築学科に所属しており、この言葉にはショックを受けた。 日本の建築教育は、その10%、いやそれ以下の数%の高尚な人々に向けてのみのデザインしか教えることができていない。 確かに都市部だけ、日本だけ見ていればそれで十分だと思う。しかしこのデザインすることの意義はもっと広く考え直されなければならないなー。			
	1-104	104P (100分)		2010/08/18 22:18:05
ポチ ☆☆☆☆	「プレイステーションでもゲームボーイでも、ジャングルの真ん中で、電気なんか見たこともない子供の手にポンと渡してごらんなさい。子供は、マニュアルなど見向きもせずにまず使い始めるのです。」 ワン・ラップトップ・パー・チャイルド創設者の言葉。そうだよなあ、子供って本当に好奇心旺盛だよなと思わせられました。 教師を養成することも必要だけれど、それよりもまず子供たち自身の力を信じてみる。そんな思いが込められていて、かつかわいらしいコンピュータが、子供たちの手に届いているといいなと思います。			
	pp. 12-26, 90-103, 110-113, 134-153	63P (45分)	pp. 90-103	2010/08/16 08:43:13
みぃたん ☆☆☆	１０%のためのデザインだったのか、社会の問題に対してこういう解決手段があったんだ、こういう目のつけどころもあるのか、と思った。 転がして運ぶボトルが、単純な発想で1番すきです。			
	-52 160-229	122P (120分)		2010/08/07 18:35:26

牛タン手工業 ☆☆☆☆	世界の10%が求める最先端などより、残りの90%のこういった生活に密着したものこそ求められているんだろうなぁと実感しました。 すぐれた美的感覚を持つ人よりも、こういったニーズを見つけることができる人を、デザイン力があるというんだろうなぁと感じました。			
	160-229	70P (60分)	170-175	2010/07/11 16:12:07

あんのーーん ☆☆☆	その土地土地、独自の環境でしか発揮しないイノベーションなどの例が見れて興味深かった。 ページには、商品の工夫と、それが使われている土地が、世界地図で示されており、 地理好きにとっては、利用される土地の共通点などを探したりもまた一興。			
	159-	70P (40分)	Part3	2010/07/07 23:55:42

上場亮 ☆☆☆	貧困層の人の価値観がデザインにあらわれていた。自分にデザインのセンスがないため、 「ほー」っと関心するばかりでした。			
	全部	218P (120分)	167	2010/06/22 13:11:34

Asagi ☆☆☆☆	生きていくためのデザイン。生きる世界を変えたデザイン。 デザイン＝意匠ではなく、もっと深いところから「ものづくり」って何？と考えることができる本です。			
	ぜんぶ	251P (180分)	どこからでも	2010/06/11 11:39:38

ひまじん ☆☆☆	今まで自分は，“デザイン”というと，その意匠性ばかりに気をとられていた．しかし，地球規模で考えれば，ほとんどの人々にとって重要なのは，必要な機能や性能を実現するための“設計”としてのデザインであることに気付かされた気がする．			
	すべて	218P (150分)		2010/06/08 17:24:54

ditherman ☆	世界の10%を対象にした現状のデザインに対する批判と，残りの90%を対象にしたものづくりの可能性を綴った本． pp.12-157 ・デザイナーとしての心がけが書かれている ・太字だけ追えば大まかなメッセージは伝わる pp.160-229 ・実例集 ・見開き(左：写真，右：説明)で一例ずつ展示品が紹介されている ・中には分かりづらい説明も… エンジニアリング思考の人には読みづらい文章だと思う．デザインは技術を無視していいのか？ただの夢物語と言われても不思議ではない．			
	全部	251P (300分)	なし	2010/05/19 22:30:42

ばっは ☆☆☆	写真でどんどんイメージがわいてくる本。 しかし、デザインというと違うものを想像してしまうしまうので、タイトルが日本人にとってはなんかミスリーディングな感じがする。 可も不可もなくてきな本です。			
	1-160	160P (80分)	写真	2010/05/17 21:49:35

	いつだったか、住友化学がつくった防虫ネットがアフリカで大好評という記事をネットで見た。企

Unknown ☆☆☆☆	業側はCSRの一環として、無償で提供しようとしていたが、関係各所からの反対により、安価で販売することになったらしい。 なぜ、無償で配布しないのかの答えがこの本には書かれている。 自ら問題を発見して、それを解決するためのアプローチを身につけたいなら、一度手に取ってみてほしい。			
	12-113,241-251	113P (40分)		2010/05/11 12:44:58

hk ☆☆	デザインにより、人の生活をより良くしていこうとする手法について考えさせられた。 経済性と利便性による最適解のデザインが、人を助ける事例が興味深かった。			
	1-72	72P (50分)	1-72	2010/05/11 03:40:43

TOPへ

チェンジメーカー１・２

著者名	渡辺奈々	発行年	2005年
出版社名	日系BP社	ページ数	459ページ
値段	1,600円	ISBN	978-4822244644
コメント	女のひとが多いなあ。ひいふう……18人のうち12人。みんな笑顔がきれいだなあ。 世の中のためになる仕事。そんなのは、才能と運に恵まれたごく一部のエリートさんにしかできないさと思っていたけれど、今日び、意外とそうでもないみたい。国境なき医師団のようなシニセでなくても、いろんなNPOが生まれて、この社会の歪みを正そうと、しなやかに真剣に働いている。もしかして、その仲間たちのなかに、あなたの居場所があるかもしれない。 「地の塩」という言葉を思い出した。		

読者投稿欄

コメント登録

ペンネーム お勧め度	コメント			
	読んだ場所	読んだページ数（時間）	立ち読みポイント	投稿時間
unknowoman ☆☆☆	顔写真がのっているのがいい。 社会って人と人とのつながりなんだな、と感じた。 事が生きがいにつながっていて、楽しそう。			
	すべて	459P (120分)	写真	2010/08/16 10:38:36
ひまじん ☆☆☆	はじめは、富を支配している富裕層が、弱者・貧困層に多少の還元をする表面的な取り組みばかりじゃないかと、少しひねくれた見方をしていたが、普通の人では事業として成立させられないようなことも、巧みなアイディアで継続的な事業として成功させている人たちのエピソードは興味深く、たしかに、こういうところから社会は変わっていくのかも知れないなとも思うようになった。			
	すべて	220P (180分)	10-23	2010/08/13 02:09:03
おれ ☆☆☆☆☆	なるほどなるほど。これが社会企業家という人たちか。皆大変そうだけど、強い信念に基づいて社会貢献しているのでなにかうらやましい。女性の比率が多いのは偶然じゃないよねー			
	1-113p	113P (100分)	6-9p	2010/08/10 12:31:20
まー ☆☆☆☆	社会企業家って良く聞くけどなんなんだろう。 そんな思いで読んでみた。 もう少し１人１人について深く掘り下げた部分を読んでみたかったが、それぞれの人が使命感をもって起業しているところに刺激を受けた。。			
	1-63	63P (40分)	24-33	2010/08/06 15:05:25

つばくろう ☆☆☆	目標を持って頑張っている人の目は輝いているとよく言われますが、本当ですね。写真の人たちはみんな目が輝いていました。			
	1-195	195P (60分)	106-113 186-195	2010/07/06 21:31:44

ボム ☆☆☆	ホームレスの人たちだって同じ人間なんだし、ホームにちゃんと住まわせてあげたい。 「ホームレスになる共通の理由なんてないの。人種的、宗教的背景や学歴も様々。ただひとつ彼らに共通していることとと言えば、みな何らかの生成ん的な傷を追っているということ。そのために自己評価が低く、競争社会での普通の生活を営めなくなってしまった傷つきやすい人たちなの」 自分の悩みとかがどれだけ自分のことしか考えてない悩みなのか考えさせられます。金はるけど鬱で死にたいとか言ってる方は、家があるだけ幸せだと思った方がイイネ☆			
	55-93	38P (20分)	55-63	2010/07/06 11:39:53

chicken-run ☆☆☆	″ビジネス″としての社会福祉活動を学べる本 一時的な薄っぺらい同情心からの散発的な経済援助という形では、援助を欲している人々の状況を変えることはできません。彼らの生活状況を根本から変えるには″ビジネス″として成立した継続的なアプローチが必要なのだと痛感しました。 p.20の「（援助には）金銭がモチベーションとなるという万国共通の普遍的な発想が不可欠なのである」という言葉が心に残りました。			
	１巻	220P (100分)		2010/06/28 17:52:50

Solar ☆☆☆☆	「社会起業家」ってなんぞや。 そう思って手に取った一冊でした。 誰かを幸せにして、自分も幸せになる活動の記録。 これを読んでいくうちに、ひとつの共通点に気付きました。 この人たち、みんな圧倒的な○○○を持ってる。			
	ぜんぶ。	270P (150分)	158から。	2010/06/28 02:24:19

つて ☆☆☆☆	国境なき医師団やアショカ財団。なんかよく聞く。 社会起業家？ 名前は聞くけどよくわかんない。 そんなあなたにお勧め。 各団体で働く人たちの、「声」が聞こえるので読んでいておもしろいし、主張がよく入ってくる。 ただ、「○○大学卒」って毎回書く必要があるの？「今のエリートは社会起業家になるのが流行り」って言いたいのでしょうか？			
	I全部	214P (90分)		2010/06/22 11:08:34

みぃたん ☆☆☆☆	社会起業家の人たちの話。 10ページずつの読み切りになっていて読みやすかったです。 全く知らなかった社会起業家について詳しくなれました。 本当にばらばらな分野の人たちが、様々な形で世界を良くしようと務めてて、 自分にも何かできることがあるはずだと思いました。			
	～23,84~93,104~123,174~183	60P (80分)	ピエロの話(174~183)	2010/06/09 00:40:54

かずT ☆☆☆☆	数々の「社会起業家」達が紹介されている. ホームレスの住居提供や紛争地帯で医療活動をする医師などが取り上げられている. 高齢化社会の日本では今までにも増して福祉事業の重要性が高まっているが，一方で財政にとっては大きな負担となっている.

	福祉事業を行いながら収益を上げるこのシステムに大きな期待を感じる.			
	54-93	40P (60分)	55-63	2010/06/05 14:57:47

富士駿河 ☆☆☆☆☆	写真に写っていた人々は皆自身を持った表情をしていた。 「これこそやりがい、自分の使命」というものを見つけたように思える。 もし自分にもっと行動力、責任感、計画力とかあれば、少しでも世界を変えられるかもしれない。 そのような希望が芽生えてきた。			
	1-133ページ	133P (95分)	全部	2010/06/02 23:06:55

k.k.t ☆☆☆	社会貢献に投資することの必要性を成功者たちの視点から描いた作品。1つ1つが短いせいか、単調で感情移入しにくかった点が残念。しかし、話によってはこの授業の他の本とリンクしてくるところが興味深かった。			
	24-53	30P (25分)		2010/06/01 18:36:24

ushiushi ☆☆☆☆	利益優先ではなく、社会貢献を主眼においた企業経営のお話。 ただ社会に貢献するだけでなく自力で経営していけるモデルを作ることにより、社会の構造を変えていくという目的と手段を同時に達成したところに価値がある。 頭のいい人が皆本に載っている人達のようだったら良い社会が出来上がっているのにと思う。 このような動きが世界中で少ずつ広がっていっていることには少し安心感を覚えた。			
	1-150	150P (120分)		2010/06/01 13:23:02

rs ☆☆☆☆	ホームレスに対して住居を提供するビジネスや、不登校児向けのフリースクールなど、様々な社会問題をビジネスにして問題解決しようとする発想がすごいと思いました。			
	全部	220P (90分)	55-63,184-195	2010/05/24 12:48:32

くらげ ☆☆☆	社会起業家という言葉に馴染みがなかったのですが、読んでみて興味深い分野だなと思いました。 特に社会起業家になろうと思っているような人には、調度良い導入口になる気がします。 私のような人には「やりがいがありそうだなー。いいなー。だけど自分には無理そうだなー」と感じるかもしれません。 そういう人は、解説を読んでみると良いかもしれません。ちょっと勇気がでます(笑) 1人につき十数ページ。 目次を見て、興味が沸いたところをちょこちょこと読めるとこは良いのですが、もうちょっと掘り下げた話があったほうが、個人的には楽しめた気がします。			
	３，４，６，１５，解説	80P (30分)	解説（笑）	2010/05/21 18:07:47

ろしあ ☆☆☆	世の中には様々な活動をしている人がいるんだなと、視野が広くなる。 ただ、それぞれの社会企業家がどのような活動をしているのか、そしてどのような成果を生み出してきたか。ということはわかりやすく客観的に書かれているが、もうすこしそれぞれの社会企業家の理念とか考え方が書かれてあるともっとおもしろかったはず。			
	24-63, 94-113	58P (60分)	112-113	2010/05/19 17:27:28

ふり太郎 ☆☆☆	日本人に欠けているコンパッションに訴えかけてきます。お金、お金と就職先を選んでしまう傾向にありますが、本当のやりがいは自分にとって何なのか、見つめ直すきっかけにはいいかも。ただ、ビジネスモデルとして、どのように収益をあげているのかが簡単に触れられているだけで、そこが残念です。			

	6-220ページ	215P (90分)	44-53,124-133ページ	2010/05/14 14:10:25

スズキ ☆☆☆	社会起業家という響きにつられて読んでみた． 中にはいろいろな人がいたが，全員に共通していたのはどういう分野であれ社会をよくしようという意思．それが原動力となってビジネスをしている印象だった．それで成功を収めているのだから頭が下がります． ただ，社会をよくするために利益を追求しているのか，利益を追求するために社会をよくしようという体裁をとっているのかよくわからなかったので，このような評価にさせていただきました．			
	1-63	63P (30分)	1-63	2010/05/11 18:39:10

hk ☆☆☆	新しい考え方を提供してくれる本であった。			
	6-220	214P (240分)		2010/05/11 03:28:58

7boys ☆☆☆☆	これからの社会がするべきことは何か、を考えさせられる一冊。 読み切れなかったので再度じっくり読みたい。			
	6-9,34-53,64-73	34P (40分)	34-43	2010/05/10 15:14:13

海老ちゃん ☆☆☆	社会奉仕のプログラムをビジネスという形で生み出してきた人たちのドキュメンタリーチックな内容。 この方々の熱き思いや理想への追求心には感服します。 ただ社会的活動をビジネスという持続的発展を伴うものにするには大変な努力とアイディア、そして資金が必要であることを浮き彫りにしていると思います。			
	第２巻 6-49, 65-89, 104-117, 132-143, 222-233	107P (120分)	10-23	2010/05/10 13:17:57

橘 ☆☆☆	国境なき医師団は、銃弾が飛んでくるところにもホントに行くそうです。 難しいのは、その団体が解散してしまったときや、 契約が終了した時なんだろうなぁ。 青年海外協力隊も、戻ってきた後の就職先に困る、 みたいな話を聞いたような。。。 だからまずは企業に入って実力付けてから、 こういうフィールドで頑張るほうがいいのかも。 早めのセカンド・ライフとして。			
	アショカ財団 インテグレックス アーキテクチャー・フォー・ヒューマニティ 国境なき医師団 マックスハベラー	55P (60分)	国境なき医師団	2010/05/03 11:27:46

どかべん太郎 ☆☆☆	貧困や人権侵害などの社会問題解決への貢献という目的を果たしながら、しっかりと利益を生み出しているビジネスの例がいくつか紹介されているが、やはり寄付金などによって成り立っているものが多く、社会貢献と収益の確保を両立するのは困難であると感じたのも事実。 しかし、社会企業家を動かす熱い思いは胸を打つものがある。			
	6-33 44-53 74-93 154-183	88P (60分)	74-83	2010/04/30 11:06:59

g2oma	企業というより社会奉仕が多かったので、最初の前書きと違う内容だなぁと思いました。			

☆☆☆		55P (60分)		2010/04/28 22:31:19

牛タン手工業 ☆☆☆☆	短い章でそれぞれの企業家のエピソードが紹介されており読みやすいです。社会企業家というくくりはあるものの、多岐の分野に関して紹介されているので自分の興味のあるところだけ読めました。 企業家の様々な考え方が紹介されており、自分の共感できるものがあると思います。			
	24-63, 90-103,144-193	104P (130分)	36-49	2010/04/26 10:41:19

ばっは ☆☆☆☆	本としては、一つ一つの区切りがしっかりしていて読みやすく、どんどんと先に行ってしまう。文章としても違和感なく読み進めていける。長編が嫌いな人にはちょうどいい本。 内容としては、その分興味深いものからあまり興味がないものまで様々。社会企業家のパワーを感じる半面、彼らの思想は大抵の場合極端(それが成功の秘訣かもしれないが)であるため、不快な思想を押しつけられるときがあるので星一つ減。 個人的には、お勧めしたいがどこがお勧めとかはあまりない。きっとその人のお勧めを見つけてくれるはず。			
	36-49,149-193	59P (30分)	36-49	2010/04/20 13:12:27

かーたか ☆☆☆☆	社会貢献には興味はあるが、お涙頂戴の社会福祉はどうも気持ち悪い。戦略的に消費セクターと社会セクターを架橋する。とても共感できる視点。１回返してからもうちょっと読みたい。			
	6-23	18P (15分)		2010/04/20 12:23:12

なかま ☆☆☆	自分の興味あるテーマ・人だけ読めるので「つまみ食い」には最適。ただ、一人ひとりに割かれるページが少なく、物足りなさを感じたので星3つ。			
	10-23,55-73,144-153,184-195,204-220	91P (70分)	21,71,213	2010/04/19 14:59:01

ditherman ☆☆	「」のついている部分は 弱者に向けて発する彼女の優しい言葉			
	6-220	215P (400分)	122-123	2010/04/13 20:02:52

TOPへ

未来を変える80人

著者名	シルヴァン・ダルニル＆マチュー・ルルー	発行年	2006年
出版社名	日経BP社	ページ数	281ページ
値段	1,600円	ISBN	978-4822245313
コメント	気のあった２人組が寝袋かかえて地球一周、社会起業家さんに片っ端から突撃取材、という趣向です。 まるでTV番組みたい？ ご名答！ ツッコミは浅いけど、ぱらぱらとながら視聴するだけで、いろんなトライアルのサワリに立ち会える気軽さがお得です。		

読者投稿欄

コメント登録

ペンネーム お勧め度	コメント			
	読んだ場所	読んだページ数（時間）	立ち読みポイント	投稿時間
ひまじん ☆☆☆	環境・エコなど理系の自分でもイメージしやすいエピソードも多く、読みやすかった。自分は、大企業など既成の組織・枠組みの中で活躍することばかりを考えていたが、本書で紹介されているような社会起業家として活躍している人を知ることで、少し視野が拡がった気がする。			
	すべて	281P (300分)	171-177	2010/08/13 02:05:57
まー ☆☆☆	様々な企業家たちのストーリーがたくさん載ってます。 ただ一つ一つをもう少し掘り下げて欲しかったかも。			
	1-60	60P (50分)	35-43	2010/08/06 14:45:18
上場亮 ☆☆☆	最近は車など何でもシェアする傾向が強まってきている。その原点はやはり人間の心理に基づくものであり、なかなか核心を突いていると思った。			
	164-169	6P (5分)	166	2010/07/06 13:08:22
ボム ☆☆☆	社会貢献になる仕組みを立ち上げたいろんな企業家達の話だ。ひとつひとつの話が短くて読みやすいかもしれないが、短かすぎてあまり感動しないというか… 写真があればもっとイメージしやすくてよかったかもしれない。 そういえばアメリカンアパレルとはあの有名なアメアパか～！！今気づきました！！			
	146-250	104P (60分)	235-240	2010/06/07 16:35:55

かずT ☆☆☆	起業家の大まかな話が聞ける本である. 成功する人に共通しているのは先見性とインパクトがあるということかなと思った.			
	1-286	286P (300分)	208-214	2010/06/05 14:31:47

hk ☆☆☆	面白い取り組みと実行する人物に興味がわいて借りた。 内容は読みやすく、なるほどと思わせる部分が多くあった。特にアジアの問題では、貧しい人を支える仕組みとして、寄付に頼らない体制の確立を目指していることに共感を覚えた。			
	12-43、81-144	94P (50分)	123-129	2010/06/01 13:11:25

ぼくらのコブラ ☆☆☆	世界中で活躍するいろいろな企業家の紹介をしていて、とても刺激的だと思います。 80人も扱うので１人１人が薄くなってしまいますが、興味がある人物がいたら自分で調べる、そんなスタンスで読むといいかもしれません。			
	130-250	120P (150分)	120-	2010/05/11 13:03:50

橘 ☆☆☆	友達が世界一周旅行をしてきました。 結構いろいろ面白いアクシデントや出会いがあったみたいで。 この本も、それと一緒にしたジャーニー本にすると、２つの面で読めたかも。 どうしても、「サワリ」だけになってしまいますね、やっぱり。 でも、さらっと読むことが出来るのが、この本の魅力です。			
	-34, 105-113, 139-163, 258-267	75P (75分)	155-163（アメリカンアパレル）	2010/05/06 19:55:12

komu ☆☆	世界中の社会企業家の事例が紹介されている。ページ数の限りもあり一つ一つの内容は詳しくないので、読んでてあまりおもしろくなかった。社会企業家とは何なのかということはある程度わかっており、その次のステップとして多くの事例を知りたいというような限られた読者にとっては需要があるかもしれない。			
	228-240	12P (5分)	239-240	2010/04/27 12:18:31

Mr.Crazy ☆☆	本の題名見ておもしろそうだなと思い借りてみました。話がいくつもに別れ短くて読みやすいかと思いましたが，個人的には興味が注がれるような話がそれ程なく，結局少ししか読みませんでした。読書嫌いな人には，こういった本はなかなか読みづらいと思います。			
	26-32,82-144,215,223	79P (60分)		2010/04/20 12:30:44

WHISKYMAN ☆	筆者が世界中を旅してヒーロー達に出会う。ここでいうヒーローとは、「信念に基づき効率的に行動」し「経済的に成功した企業家」である。都市部のゴミを天然肥料に変えたり、環境にやさしい新たなエネルギーモデルを確立したりなど、ここで紹介されているのはいずれも現状の問題を解決すると同時に社会的に貢献できるような付加価値を生み出すものである。 ただ、個人的にはあまり楽しめず数ページでギブアップしてしまった。多くのエピソードが載っているのはいいが、ひとつひとつが短くてインパクトが足りないというか、ヒーロー達が直面した困難や抱えた悩みなどが具体的にイメージできないのであまり凄さが伝わらないという気がした。			
	12-23,105-129,146-177	69P (60分)		2010/04/17 23:22:52

TOPへ

国をつくるという仕事

著者名	西水美恵子	発行年	2009年
出版社名	英治出版	ページ数	297ページ
値段	1,800円	ISBN	978-4862760548
コメント	よく怒り、よく泣く。それがマダム・ミエコの推進力かも。 途上国を支援する世界銀行という仕事。電線に流れている電力まで二大政党が分捕り合戦している（インド235-236ページ）など、生半可な正義感では太刀打ちできない、絡まりもつれた現状に、それでも「何が正しいか」だけを武器に敢然と立ち向かう勇姿がすがすがしい。 いやそんなごリッパなお話はどうもね、というかたには、274ページ、伝統衣装外交のエピソードだけでも。		

読者投稿欄

コメント登録

ペンネーム お勧め度	コメント			
	読んだ場所	読んだページ数（時間）	立ち読みポイント	投稿時間
yuigawa ☆☆☆☆	恥ずかしながら世界銀行という組織についてほとんど何も知らなかったので、その精神性の高さに感銘を受けた。 一章ずつの情報量はそれほど込み入っていないので、スラスラ読める。要所要所で思わず考えさせられてしまうが。 最も印象的だった部分は、ブータン国王の人となりと、ソ連が崩壊する以前の共産主義国としてハンガリーという国の姿。 全体を通して、戦うべき『腐敗』や『真のリーダーシップ』とは何かを考えたいときにはぜひ読むべきだと言える。			
	全部	297P (120分)	冒頭部分	2010/08/13 04:51:58
1412 ☆☆☆☆☆	優れた指導者の献身的な姿勢に感動した。 あとこの本の主旨とはずれるが、国体の保存について。国土が海に沈みつつあるモルディブでは、留学制度により世界で活躍する人物を育成することで国体保持を図る。大国に挟まれたブータンでは伝統文化を保存する事で国体保持を図る。日本はどうなんだろうか、天皇がいるからとりあえずは大丈夫なのだろうか。			
	1-297	297P (180分)	112-117	2010/08/06 13:46:38
なかま ☆☆☆☆	エイズを自分自身の危機としてとらえていなかった自分に対して、 「自分の頭とハートが、今の今までつながっていなかったのだ。」と言った彼女。 この業界の人たちは「cool head, warm heart」を常に思っているんだなと改めて感じました。 「人の世に不変なものは変化のみ」 ブータンの雷龍王の一言にしびれました。			

	3-10,46-85	48P (30分)	60-61	2010/08/03 18:58:51

ぼるてぃー ☆☆☆	やっぱり人と人の結びつきが大事。国をつくると言っても制度や枠組みじゃなくて、そこに生きる人と直接交流し、互いによりよい国へと変えていこうとする姿があります。			
	3-10,17-123,244-291	162P (120分)	273-278	2010/07/29 18:01:28

つばくろう ☆	あまり興味が持てなかったので途中で読むのをやめてしまいました。少し重い本で読みにくかったです。			
	1-74 292-313	95P (70分)	292-313	2010/07/14 21:50:19

ditherman ☆☆	なぜ，雷龍王はリーダーとしての地位を退いたか？ 人々にあれほど慕われながら．臣下にあれほど求められながら． “リーダーシップの原点は，人々に対する深い共感である． その真実を教えてくれる，素晴らしい言葉がある． 千人の頭(かしら)となる人物は， 千人に頭(こうべ)を垂れる人物である． 真のリーダーが求めるのは，無数の人々が，自分というリーダーに付き従うことではない． 真のリーダーが求めるのは，無数の人々が，自身の人生のリーダーとして生きていくこと” 著者は本書の最後に雷龍王の姿を描いた．			
	全部	297P (400分)	水際立つ	2010/07/12 18:59:14

くらげ ☆☆☆☆	時間の都合上、ほとんど読めなかった。 しかし冒頭を読んだだけでも、著者の情熱と優しさを感じることができた。 うー。もっと読みたかったな！			
	1-23	23P (15分)		2010/07/12 18:53:18

富士駿河 ☆☆☆☆	国のリーダーとして、社会を良い方へ引っ張っていく。読んだ頁数はそれほど多くなかったが、このことがどの国であれ必要最低限のことだと実感した。 各国の大統領、首相と向き合って自分の主張を述べる著者には、武力や権力以上の確かな強さが感じられたと思う。			
	75-140ページ	66P (60分)	86-111ページ	2010/07/02 16:38:09

オレンジ ☆☆☆☆	以前読んだ『資源大陸アフリカ』や『中国 巨大国家の底流』と同じような感覚になりました。 アフリカ同様、我々日本人があまり知らない世界が描かれていますし、中国ほどではないにしても、様々な場面で登場する汚職の数々。 豊かな日本にいる限りは知ることのない世界がそこには広がっていました。 草の根を重視する西水さんの姿勢は尊敬に値するものです。 とは言え、自分にここまでできるかと言われれば、答えはNo。 自分勝手ですね、はい。。。 個人的に気になったのは、何度か日本を男尊女卑としている点。 鉄道の女性専用車輌、航空機の女性専用トイレ、数々のレディースプランなど、日本は比較的女性に優しい国だと男の自分は感じるのですが、間違いなのでしょうか。 ところで、西水さんが理想としているのはブータンなのかなぁと、読みながら思っていたら、昨日(6/21)の日経に彼女のインタビューが載ってました。 そこでもブータンの話が出てたので、「ああ、やっぱりそうか」と思いました。			
	全て	297P (240分)	pp.58-pp.74	2010/06/22 13:18:05

ばっは ☆☆☆☆	女性は女性に厳しすぎる。いいフレーズだが、私は男性だが人に厳しい。 厳しく言うと、日本の少し前にあった女帝問題をニュースの通りに受けるのはよくない。その後の報道でもわかるようにあれにはいろいろな問題があるものさ。 そして女性政治家というが、日本がというよりもそれはもうゆっくりと変わるしかない。いきなり変わることなんて危険しかないから待つべきだ。それができないで、やれ日本は海外に遅れているという人は男女問わずに政治家なんて向いてない。			
	52-57,80-85,274	11P (5分)	274	2010/06/22 11:36:37

つて ☆☆☆☆☆	国づくり＝人づくり 著者は、国をつくる人々と語らい、喧嘩し、感銘を受けていく。すぐれたリーダーとは？ということを考えさせられた。			
	全部	297P (150分)	どこからでも	2010/06/15 11:48:08

牛タン手工業 ☆☆☆	国づくりは人づくり。 途上国に限った話ではないと思います。 仕分けだなんだって言ってる間に人づくり(=国づくり)が進んでいる国もあると思うと複雑です。			
	40-57、112-157	64P (80分)	46-51	2010/06/07 09:43:58

弟子 ☆☆☆☆☆	前半は電車の中で読んでいたが「これでは失礼だ」と思い後半は家に帰って布団の上に正座して読みました。おかげでいま足が痺れてい大変です。 優れたリーダーであるが故、国民が自分を盲従することを嘆く雷龍王、「私達の島が、いずれ海に帰る」と笑いながら語るモルディブ諸島の母親、民主化への切り札に「女性だよ」と答えるマンモハン・シン首相、自分の足で『母国』を歩くブータン王妃。 そこには人がいて、国にがあって、思い出があって、優しさがあった。政策があって、リーダーがいて、勢いがあって、強さがあった。貧困があって、外交があって、不満があって、意気込みがあった。そこには人がいて、人がいて、人がいた。いろいろな人がいて、いろいろな人がいた。 国をつくるだなんて高尚なことはなされていない。ただ、人と出会い、話し、考えさせられ、影響を与え、それをまた別に人に伝えていく、それだけな気がした。でも多分この本の著者は、それを国際レベルでできうる唯一の人ではないだろうか、とも考えた。			
	all	297P (120分)	まずは「はじめに」から	2010/06/01 01:42:18

7boys ☆☆☆☆	技術を学ぶ我らに何ができるのだろうか・・・と考えさせられる一冊。 西水さんの講演を聞いたこともあったため、とても興味深かったです。			
	1-255,279-313	289P (200分)	220-225	2010/04/27 13:12:46

an ☆☆	一つ一つの話が短いから、立ち読みにはいいと思う。 「良い民主主義への推移を促すのに必要なのは、女性」というのにはなるほどと思った。			
	1-45	45P (30分)	1-45	2010/04/20 13:04:46

TOPへ

「社会を変える」を仕事にする

著者名	駒崎弘樹	発行年	2007年
出版社名	英治出版	ページ数	245ページ
値段	1,400円	ISBN	978-4862760180
コメント	そんなにゴタイソウな理想や使命感があったわけじゃないんだ。 ベンチャーやってて、ふと行き詰まって、じゃあなんか、金儲けじゃないことやってみっか、みたいな。 ワーキングママたちのために、子供が急病の時に預かってくれるNPO「フローレンス」を立ち上げた駒崎さんの、いきあたりばったり、でも大まじめでアツい浮き沈み人生。 ポコンポコンとキーワードが大きなフォントになってて、そんな工夫も駒崎さんの人生みたいにメリハリがあって◎。		

読者投稿欄

コメント登録

ペンネーム お勧め度	コメント			
	読んだ場所	読んだページ数（時間）	立ち読みポイント	投稿時間
かーたか ☆☆☆☆	口語体でとても読みやすい。 就職をするにあたっての参考、指針になるなと思って手に取った。 自分も信念を掲げて仕事がしたいと思っているが、それが何なのかまだ分からないし、突き詰めることも出来ていない。 そんな中この本では、社会を変えたいという信念を仕事に変えた体験を綴ったものであるが、それには行政、市民、お金、同業者、支援者というように様々な社会の中でのロールがどのような役割をもっていて、ソーシャルベンチャーを日本で起こす場合にぶち当る日本の社会構造も見ることができた。 日本をこれからどうしていけばいいのかと考えてみた。			
	1-254	254P (240分)		2010/08/10 17:48:42
ボム ☆☆☆	最近就職活動を考えるにあたって、自分のやりたいこと、社会のためになることとは何だろうとよく考えます。 今までは起業とか全く視野になかったのですが、先輩の助言などもあり将来的には起業も考えるようになりました。 そんな時、この本の著者のように、新しい視点から事業を立ち上げるのはとてもすばらしいことだと思いました。 ただ、みなさんもおっしゃっているように、この方の文章はちょっとくせがあって、せっかくすごいことをしているのに、あんまり好感を持てませんでした。 私が起業したら、みんなが共感でき、Ｈａｐｐｙになる本を出版したいです。			
	1-77	77P (60分)	72-77	2010/08/09 15:27:08
上場亮	「社会を変えた」というのはあくまでも結果であって、プロセスではないと思う。自分に与えられた仕事なり課題なりを納得がいくまでに仕上げて、それが結果的に社会に影響を与えるものになる			

☆☆	ことはあるかもしれないが、初めからそれを目指してもしょーがないのでは？？			
	全部	245P (180分)		2010/08/06 15:52:05

ukayare ☆☆	文章がなんかうざい。なんか海外見てきて俺は世界を知ってんだみんな苦しいこと知ってんだそしてレールに乗って動くことなんてばかばかしい俺はいきたいように行く自分と話し合った結果NPOをたちあげてみるぞ！ この本の著者は間違いなくナルシストだ、文章のはし端から小粋な表現とちょっとした冗談を書きながら「あ。俺ってこういう文章書けててかっこいいな」という作者の脳内が見えてるような気がする。こういう自己陶酔しながら書かれた文章をみると何かイライラする。というか中二くさい文章。いや、中二文章嫌いじゃないんですよ、ただこういった類の本の場合まずうざくてしょうがない。 ただ内容はNPOとか行動とかいろいろ頑張ってるね、と思うような部分もあったんで好きな人は好きなんでしょう。文章力で損をしているもったいない本かもしれない。			
	２章まで	77P (30分)	non	2010/06/30 19:39:07

ぼくらのコブラ ☆☆☆☆	途中しか読んでいないことが、申し訳ないのですが・・・ 「社会を変える」というと大きなことを連想するかもしれませんが ことはとてもシンプル。 まずは「言葉」にすることが大きな変化に繋がっていくのです。			
	55-77,143-186	67P (60分)		2010/06/29 20:05:00

栃木のイベンター ☆☆☆☆	この本は，社会実業家になる話だったのですが，個人的には固い感じではなくとても読みやすかったです. また最近変わった視点から起業して成功している人についてテレビでもみるが，このような幅広く柔軟な発想力を持ちたいと思った. まー起業する気はまったくないんですれど．．．			
	全部	245P (180分)	第6章	2010/06/15 09:56:49

江戸川 ☆☆	社会問題を解決する。その方法の一例がこの本には示されています。 NPOという形で作者はそれを為し、その道程が綴られています。 でも文字を大きくしたり、言葉づかいをフランクにしたり、なんだか安っぽい。 意図的なものなんだろうけど、個人的には受け入れられませんでした。			
	全部	245P (120分)	なし	2010/06/11 12:31:53

みぃたん ☆☆☆	あまり縁のない、文系の大学生活を読みやすく語っている本で、 人の人生経験談を聞いているようで面白かったです。			
	～97	97P (120分)	コラム（短くていい）	2010/06/09 00:43:50

牛タン手工業 ☆☆☆☆	「20円」…で社会企業家という職業に興味をもったので続けざまに読みました。 やはり社会企業家になろうとしたのは「社会の役に立ちたいから」。こういう考え方は日本人がもともと持っているような気もするけど、現代社会の流れの中でいつの間にか忘れられていることを感じました。 ただ、こういう考え方に共感できてもやっぱり敷居が高そうだなぁと漠然と思う自分もいて、「その一歩」を踏み出してる人たちのすごさを実感します。 もう一度自分のやりたいことを考える機会をくれた気がして非常に参考になりました。			
	1-118	119P (90分)	47-54	2010/06/01 12:18:25

g2oma ☆☆☆	社会を変える社会起業家の話であるが、自分自身を探る話でもあると考えた。これから、何をすればいいか、人生のなかでちゃんと考える時間が必要である。コレをもう一度確認させてくれた本である。			
	1-118	118P (60分)		2010/05/24 22:50:29

くま ☆☆☆	高校のときに読みたかった。			
	1-254	254P (120分)		2010/05/24 21:42:16

ありす ☆☆☆	困っている人がいても自分に関係がなければそれは他人事。そんなのはダメだ。コップをたたき割って、嵐を巻き起こさなきゃ。 病児保育、働くママたちを助けるために彼は立ちあがる。「子供を愛していない親なんて一人もいない！」 社会起業のあり方、心の構え方、走り続けることの大切さ——得るものは多かったけれど、フォントのサイズをいじってることや文章構成がチープに感じた…かな。せっかくすごいことやってるのに、なんだかあんまりすごく感じなかったのはわたしだけ？			
	ぜんぶ	245P (65分)	213-219ページ	2010/05/12 21:52:26

ｃnd ☆☆☆	社会起業家になる過程がわかりやすく載っていました。 勉強になりました！			
	1-245	245P (130分)		2010/05/11 12:53:09

ばっは ☆☆☆	就活している女の子のメアドをゲットできる方法がこの本に載っている!!			
	1-254	254P (100分)	まえがき	2010/05/11 11:46:22

つばくろう ☆☆☆	病児医療問題という今まで問題とされながら誰も取り組んでこなかった問題に正面から立ち向かっていった人の話。 NPO団体を作って行く上で様々な障害があり、それを一つずつ対処していく様をえがいていた。 今はやりの起業であるがそれがいかに困難で大変なものであるかを痛感させられる内容であった。			
	1-254	254P (150分)	226-229ページ	2010/05/08 19:48:31

つて ☆☆☆	社会起業家ってこんな感じですっ！ ということがわかる本。 文体がフランクで読みやすい。			
	10-236	207P (100分)	5章	2010/05/08 14:07:59

富士駿河 ☆☆☆☆	「社会の役に立ちたい」 自分もそう思っている。しかし、何をしたらよいのか。何が出来るのか。この一冊はその一つの例を教えてくれた。 この一つ前に読んだのは「ルポ貧困大国アメリカ」だった。共通して言えるのは、これからは一人一人が社会に対して行動できる時代であり、行動する事が必要であることだと思う。もちろん自分も含めて。			
	10-236ページ	227P (120分)	47-54、226-229ページ	2010/05/06 08:22:43

komu ☆☆☆☆	ITベンチャー社長をやめ、病児保育問題解決を目的としたNPO法人をたちあげた人の話です。社会企業家とはどのようなものなのかが一通りイメージできます。とても読みやすく面白い内容なのでお勧めです。 「僕は他人の評価の奴隷ではない」という言葉にドキッとしてしまいました。僕も自分の気持ちに正直に生きていきたいです。			
	38-225	188P (60分)	48-54	2010/04/27 11:17:31

布団が敷いてある ☆☆☆	社会起業についての話がメインになっているが，実際はそれ以外の問題解決のためにも応用できそうな話が多くあり面白いです.			
	1-254	245P (200分)	213,214ページ	2010/04/23 16:24:23

ditherman ☆☆☆	何かを解決したい 短期的になって，そういう時に限って手段が目的になってしまっていて… 手段は他にもあるでしょ 今すぐには思いつかないけれど… “やめるのはもうちょっとだけ走ってからにしよう”			
	1-254	254P (500分)	139-141	2010/04/13 20:16:52

TOPへ

「２０円」で世界をつなぐ仕事

著者名	小暮真久	発行年	2009年
出版社名	日本能率協会	ページ数	209ページ
値段	1,470円	ISBN	978-4820717416
コメント	テーブルフォーツー。社員食堂でヘルシーメニューを選ぶと、あなたが支払ったうちの20円がアフリカの子どもの給食になります。 先進国の肥満と途上国の飢餓を一挙に解決してしまえという欲張りアイデアをビジネスとして成り立たせてしまった小暮さん。そのサクセスの舞台裏トークですが、パートナーシップの築き方やブランディングの手法など、ふつうの仕事に置き換えてもしっかり適用することができます。 その点、フローレンスの駒崎さんよりクールで論理的かな。		

読者投稿欄

コメント登録

ペンネーム お勧め度	コメント			
	読んだ場所	読んだページ数（時間）	立ち読みポイント	投稿時間
ぼくらのコブラ ☆☆☆☆	柔らかい言葉使いでポイントがしっかり書いてあるので すんなり内容が入ってきました 文章うめ～ あと、第３章にコンサル時代に培ったビジネススキルを 社会事業にも応用させ方が明快に述べてあり 素人の自分でもちょっぴりビジネスかわかった気がしました			
	掻いつまみ食い	100P (30分)	3章	2010/08/14 21:58:51
ひまじん ☆☆☆☆	特に励ましてくれるような内容ではないが、著者の“想い”や考えに共感できる部分が多く、これを読んで自分は前向きな気持ちになった。あと、さすが元マッキンゼー、説明がとてもわかりやすい。			
	1-99、178-217	140P (150分)	70-76、84-99	2010/08/14 04:46:51
上場亮 ☆☆☆☆	さすがマッキンゼーというだけの行動力、アイディアだと思う。そしてこの人の行動が現代の世界の状況に対しすごく自然に感じられた。			
	全部	209P (180分)		2010/08/06 15:39:31
	あなたが口に運ぼうとしているそのチロルチョコを差し出せば，どこか知らない所でお腹を空かせた子供が満面の笑みを見せるというよく聞く話．表紙の子供よ，もっと美味そうな表情しろよと思ってみたり…			

ditherman ☆	“想い＋頭脳＝成功”みたいなことが表紙に書いてあるから手に取ったけど，よく読めば立ち上げからまだ5年も経っていないらしい(発行時)．冒頭であっさり説得力をなくし，その後に語られる苦労や想いは，「怪しい団体扱い」だった．もっとも本書では創業期の苦難を語る言葉として用いられているが． ただ，3章で語られているビジネススキルの箇所は良いことが書いてある．TFTの内容を完全に削って「アイデアのちから」方式に小さい具体例を並べればそれなりになったと思う． それにしても“TFT”とは…．もっと良いネーミングはなかったのか？			
	全部	209P (250分)	なし	2010/07/16 22:23:38

くらげ ☆☆☆☆☆	食堂でやってますよね、TFTランチ。 はじめTable For Twoって書いてあって、２人席専用の企画かと思った私は間違ってないはず。 美味しいからしばしば買うけど、微妙に２０円って高くね？毎日買ったら月いくらよ？って内心思ってた。読んだあとも、その気持ちは変わらない。でもまあご飯食べながら、その向こうに子供の笑顔を思い浮かべれば、ちょっと嬉しくなれるかな。 ----ここまで本の話なし---- チェンジ・メーカーはたくさんの社会起業の概要を知るには良かったのだけど、１つ１つのエピソードが短すぎて物足りなかった。 その点、この本は１冊かけてTFTにかけた人生を語ってくれているので、バッチリだった。 著者はきっと、とても優秀な人なんだなあと思いながら読み進めた。自分には無理と思う面もあるのだけど、やっぱりカッコいいなあと憧れる。 私みたいにチェンジ・メーカーを読んで、物足りなく感じた人には絶対おすすめ。			
	1-81	81P (60分)		2010/07/12 19:45:56

富士駿河 ☆☆☆☆	著者の多様な人生経験、アメリカではNPOが盛んなど、「社会を変えるを仕事にする」との共通点が結構あった気がする。先にこの本を読んだためか、社会事業は利益を得ることも必要、と言う考えに違和感を何も抱かなかった。 NPOに対する考えを改めるきっかけにもなったが、一番学んだことは、社会を動かすほどの「良いこと」をするために必要なものだと思う。人の役に立つという気持ちだけでは十分でなく、ちゃんとしたマネジメント、つながりが不可欠なのだと。TFTランチを食べながら、早速5Pを実践してみようと決めた。			
	全部	216P (95分)	4-17、131-156、178-200ページ	2010/07/04 23:53:13

sky ☆☆☆☆	社会事業はボランティアでやるものだろ。なるほど、知らないうちにそう思いこんでいたんだな、と気づくことができただけでも十分読んだ価値があったと思う。 でもそう思われても仕方ないのではないかと。だってNPOってNonprofit Organization の略なわけで、Nonprofit って謳ってるのにprofitを得るのはどうなのよ？って誰もが思うんじゃないかなぁ。名前を別なものに変えられないものなのかな。 それと「寄付」って言葉も気になった。消費者はアフリカの子供たちに向けて寄付したのにその一部が運営の給料になる、とだけ説明されると騙された気になる人が出てもおかしくないかと。もちろん、ちゃんと仕組みを理解すれば別なのだろうけど、流れとしては、消費者がTFTに援助して、そこからTFTがアフリカで上手く使われるようにシステムを作っている、という感じですよね。この流れをひっくるめて「寄付」と呼ぶのは勘違いの元になりそうな気がする。 小さいことかもしれないけど、こういった言葉を変えるだけでもうちょっと誤解が減るような気がした。			
	all	209P (130分)	３章	2010/06/28 14:55:12

an ☆☆☆	世界的経済学者とと対話が最後の決めてになったっていうのは、びっくり。。こういう人は学者とは相容れないと思っていた。 20円は高いのか、安いのか？？			
	全部	209P (200分)	ｐｐ82-ｐｐ84	2010/06/15 12:41:50

asce ☆☆☆	NPO法人（社会事業）に対する偏見がかなり薄れた。 自分にはこの仕事は向いていないと思った。 東工大食堂にも、6/7から導入したみたい。			
	all	209P (220分)		2010/06/14 17:00:49

chocolate ☆☆☆	社会事業とかって苦手。やっぱり偽善者だと思うから。 その考えはこの本を読んだ後でも変わらないけど、ただ与えるだけの支援でなく win-win の仕組みを考えついたTFTは新鮮だった。			
	1-219	219P (60分)	36-37	2010/06/04 23:50:07

akilu ☆☆☆☆☆	うん、NPOに偏見持ってました。 あとこの本にも先入観MAXで掴みかかったら巴投げされた。 コンサル志望の自分としては大変勉強になりました。 手元に置いておきたいな。ブックオフまわってみよ。			
	あＩＩ	209P (150分)		2010/06/02 12:57:09

WHISKYMAN ☆☆	ほんの少し読んだ上での感想にすぎませんが↓ 何かをやって世の中を変えたいなと思っても、何から始めたらいいかわからないしどうせ大した成果なんて上がらないんだからやっぱり諦めよう、というのが普通の人の思考。この人は何か違う。行動すれば想いはかなう、やりたいことができると言っている。正論なのかもしれないけど、頭では理解できるけど、自分は実行できるとは思えない。自分はやっぱり普通の人だから。この手の分野に対するモチベーションを上げるためには本だけじゃ不十分で何らかのlife changing experienceが必要なんだろうなと思う。			
	1-17,178-212	52P (15分)		2010/05/31 20:47:41

DAIKINエアコン ☆☆☆	思わず就活の選択肢に社会事業を考えてしまった. 文中の 日本では「社会事業」といえば，志高く，人生に余裕のある人が無給でやるものと思われている という節はまさに自分の認識でした．社会事業が一般的な企業（営利団体）と本質は変わらない， というお話はとても興味深く，これを読んでから，街中の様々な社会事業が目につくようになりました. やっぱりアメリカ行かないとダメかな・・・？			
	1-165	165P (100分)	最初の章（本当は無いと思う）	2010/05/30 22:11:36

牛タン手工業 ☆☆☆☆	社会事業というビジネスの解説が非常に読みやすく書いてあります。 Non-Profitでどうやって食べていくんだろうと疑問に思っていましたが、海外では民間企業よりも稼いでいることがあるくらいだというのが意外でありどこか不思議に感じたり。 誰かのためになりたいけれど民間企業でできないと感じたら、社会事業という選択肢もあるのか、と自分の職業について考えさせられる内容だと思います。			
	59-200	142P (180分)	75-83	2010/05/25 12:17:09

komu ☆☆☆	前職が戦略コンサルタントで現在社会企業家の人の話。 なかなかまねのできる人生ではないかと思うが、だからこそ読んでいておもしろかった。			
	60-177	118P (70分)		2010/05/18 11:43:26

	自分の仕事にこれだけ熱く打ち込めて誇りを持てる人が、今の日本にどれだけいるのだろう。 漠然と「何かをしたい」では駄目で、それが世界規模であれ自分のことであれ、何かを変えるため			

ありす ☆☆☆☆	には立ち上がって動きださなくてはいけないのだ。 それにしても、うちの学食でもtable for twoやってくれないかなあ。			
	ぜんぶ	209P (90分)		2010/05/10 22:58:32

なかま ☆☆	何かを成し遂げる人って、高い目標を掲げてそれに向かって突っ走るというより、その時々を真剣に生きている人なのかもと思った。色々な経験の積み重ねが、後々大きな財産になるんだろうね。 何冊か本を読んでいくと、自分の「いいな」と思ったポイントに共通する何かがあるように思えます。			
	全て	209P (120分)	32-41,62-63,68-70	2010/05/09 17:24:16

つて ☆☆	最初の2章は自慢話。なので、ビジネスとNPOの関連を示した3章がおすすめ。 NPOも社会的存在なんだから、一般企業と同じような（それ以上の）ビジネススキルが必要だよね、ということが具体的に分かった。			
	102-211	109P (50分)	3章	2010/05/08 14:11:39

ばっは ☆☆☆	TFT…しっぺ返し戦略ですわかります。 まぁ序盤はいらいらするような自慢話。こんな本を読んだところでどうなるんだ？と私は思ってします。スーパーマンに空の飛び方を教えてもらってもどうにもならん。 しかし、NPOには関心がある。根性で読むと、後半はNPOがきちんと運営されるためのことなどが書いてあるので★三つ。後半だけならもうちょっと評価は高い本。			
	1-219	219P (180分)	後半	2010/05/04 22:44:06

弟子 ☆☆	“この手の本を読むと死にたくなる病”はまだ治っていない 素晴らしい社会企業への理念、自分のあるべき居場所を求め続けて辿り着いた「社会企業家」という職業。そのあり方、生き方、考え方は称賛に値する。チープに言ってしまえば「立派」の一言が出てくるのであろうが、この人は「立派」の言葉がほしくてここまで生きてきたのではない。ただただ求めたんだ、彼のあるべき姿を。そう思わせてくれる本。だから、私の感想は非常に簡潔だ。 「これは長男の就く職ではない。故に私はこの職を望まない。」			
	all	209P (30分)	特になし	2010/04/25 02:11:55

ピアノはじめました。 ☆☆☆☆	小暮さんが立ち上げた社会企業TFTの事業計画書をエッセイ化したような本。 読んだ人は自分の仕事選びについて考えさせられると思う。 自分がしている仕事のやりがいを「震えがくる」・「叫びたくなる」ほど感じれる小暮さんが羨ましい。 分かりやすく、読みやすい構成なので誰でも気軽に読めるはず。			
	全部	201P (150分)	36,37P	2010/04/17 12:30:07

TOPへ

地球のハローワーク

著者名	ナショナル・ジオグラフィック	発行年	2009年
出版社名	日経BP社	ページ数	333ページ
値段	1,900円	ISBN	978-4863130722
コメント	表紙の写真に一目惚れ。 人生の豊かさとか、地球の広さとか、めんどーなコリクツなんて、どうでもいい。パラパラめくって運良く「一目惚れ」に出会えたらこの本はあなたのものです。		

読者投稿欄

コメント登録

ペンネーム お勧め度	コメント			
	読んだ場所	読んだページ数（時間）	立ち読みポイント	投稿時間
B4たかし ☆☆☆☆	全てのページをパラパラ、スライドショーのように読むもよし。 写真とその解説を見比べながら、1ページに数分かけて読むもよし。 そんな本だと思います。 いや、決して制限時間まで残り40分を切ったからこういうことを言うのではなくてね？ 写真集なんだから本当にそういう読み方が出来るんだからね？			
	ざっと全部	336P (10分)		2010/08/19 05:27:25
nao ☆☆☆☆	世界の広さを感じさせてくれる。 衝(笑)撃的な写真も多く、飽きずに見ることができた。			
	1-333	333P (80分)	115	2010/08/18 13:31:07
鍋工房 ☆☆☆☆	どうやら自分は自然の中で生きていることを感じさせてくれるような写真が好きになる傾向があるようです。 人生の、ありえた可能性についていろいろ考えさせられる写真集でした。			
	all	333P (100分)	326	2010/08/18 05:40:19
おれ ☆☆☆☆☆	自分のなりたい職業はあった？ おれのはありましたー！！ 写真のみで広がりを感じる一冊です。			
	all	300P (30分)	p104	2010/07/22 13:41:16

7boys ☆☆☆	ナショナルジオグラフィックを思わず定期購読したくなるほどの美しさ。 ただ、そこからどのようなことを読み取るか、というのは難しい。 もう少し文が欲しい気もする。			
	all	333P (60分)	パラパラと見るだけでもぜひ	2010/07/20 12:35:47

ushiushi ☆☆☆	さっと読んだだけで何かわかるかなと思ったけどやっぱりあまり分からず。 写真の鮮やかさは目に付いた。これらの写真から働くことについての考えには至らなかった。			
	ぱらぱら	70P (15分)		2010/07/13 13:21:05

asce ☆	写真集だと知らずに手に取った。その結果がこれだよ！！！ 題名がくそだな。“ハローワーク”が気に入らない。 すべてが台無し 内容だけなら☆×4 翻訳前が気になって、ちと調べてみた。 原本のタイトルはわからなかったが、2006年にも“地球に生きる-仕事と人生-”とタイトルで似たような本が出版されている。山室先生が一目惚れした表紙は一緒。 こっちなら高評価だったかも			
	all	333P (50分)		2010/07/09 17:52:00

海老ちゃん ☆☆☆☆	これらの写真をよく見ると、匂いや音などが伝わって来る気がします。写真の力を改めて思い知りました。 全部を通して読んだ後でp118,119の日本人を見ると操作されている感じが（笑） でも結局は貧しい国の人の一日も、日本人の一日も同じ1440分。 僕も生きるために働きます。 ただ就職活動が・・・はぁ。			
	全て	333P (60分)	114,115	2010/07/05 18:20:12

どかべん太郎 ☆☆☆☆	働くとは何なのか？ 115ページ、拳銃を組み立てるパキスタンの少年の目の鋭さに衝撃を受けた。 世界に対する認識の甘さを実感した。			
	全部	333P (50分)	114,115	2010/06/09 12:45:35

ふり太郎 ☆☆☆☆	時代が一昔前の写真もあったりして、一概に今もこのような仕事が世界各地で展開されているというわけではないが、彼らは仕事を通して何を感じ、何に思いを馳せているのだろう？そういう視点で立ち読みポイント選びました。時の流れがゆっくりな所もあれば、あわただしい所もある。異文化体験を経験でき、ホントに地球は広いんだなと感じます。			
	all	333P (50分)	166,170,171,226,227	2010/06/03 16:31:43

スズキ ☆☆☆☆	日本にはない仕事がたくさんあります. このような人たちの努力によって今豊かな生活ができているのかもしれないと考えると，感謝しないではいられません. 写真が綺麗なのはさすがナショナルジオグラフィック.			
	all	335P (25分)	114	2010/06/01 19:09:38

ピアノはじめました。 ☆☆☆☆	世界は広い。いろんな仕事・生き方がある。そしてその各々がつながってると感じさせてくれる。 また一方で、自分は自分の働き方・生き方を知らない間に限定しすぎてるのではと、自分の世界観のせまさも感じさせてもらった。			
	all	333P (40分)	102,158	2010/05/26 22:30:39

忍者 ☆☆☆☆	写真の影響力というのを改めて感じた一冊。 「仕事」という人類の営みを通じて、作者は何を伝えたかったのか。 確かに悲惨な労働環境に対する批判などもあったろうし、その写真のメッセージ性はとても強いものだ。 しかし最も作者の言いたかったことは、ただ単純に”労働とは美しい”ということではないか。 そんな気がした。			
	全部	333P (30分)	146ページ	2010/05/24 15:55:28

牛タン手工業 ☆☆☆☆☆	世界にはこんなにも多くの働き方があったのかということを実感させられました。 特に114,115ページと118ページの違いが印象的で、日本というのは何て恵まれている国なんだろうと思いました。 でも恵まれているとは何だろうって考えると、場所や職業に関係なく笑顔で働いている人たちこそ恵まれているのかもしれない、なんて考え方もしてしまいます。 もしこの本に中学生の時に出会い、真剣に読むことができていたなら、自分の選んだ道は違っていたかもしれない。			
	全部	335P (45分)	39114,115,118,127	2010/05/18 13:11:14

ｃnd ☆☆☆☆☆	写真を通して自分の知らない世界を少しだけ見れた気がします。 働くとは何なのか。 写真に写る人はみんな表情がいきいきとしていて、勇気づけられました。			
	1-335	335P (30分)		2010/05/18 12:50:42

ろしあ ☆☆☆☆☆	働くとは。 この写真集に写っている人々の姿はどれも真剣だ。 世界の広さと、人間の奥深さが感じられ 生きることの意味さえ教えてもらえそうな本。			
	全部	335P (40分)		2010/05/10 21:34:54

橘 ☆☆☆☆☆	テキトーに目についたものをGW用に持ち帰ったので、 写真集と気付かないまま読み始めましたw 写真の勉強を少ししてるので、ちょっと勉強になりました。 でもそれ以上に、114頁と118 & 119頁のギャップを見て頂きたいなって思いました。			
	全部	335P (30分)	114, 118 & 119	2010/05/01 09:14:01

ボム ☆☆☆☆	同じ地球上で同じ時間でも違うところではこんなにもいろんなことが起きているんだなぁと思いました。 私はペットボトルに入って売られている牛乳の写真がおもしろいと思いました。			
	全部	335P (60分)		2010/04/27 12:56:01

	レポートの気分転換に読み始めましたが、気づいた時には無言で写真に魅入っていました。 普通に生きている限りでは知る由もない世界の仕事のひとつひとつが視覚に映り、何度も見返して			

あんのーーん ☆☆☆☆☆	しまいます。 自分たちの外の世界が数多く存在している上に、それらは想像の遥か上ということを感じました。 知的好奇心を満たす、いい写真たちだと思います。 またその撮影された年代にも注目すると、さらに面白いかもしれません。			
	全部	335P (60分)	すべて	2010/04/21 23:25:50

atom ☆☆☆☆	仕事は千差万別。 この本の中で印象に残っているのは生きるための仕事をしている写真。日本人は生きるためというか金を稼ぐために仕事をしている。それは結局生きるためではあるとは思うけど、ワンクッション「金稼ぎ」が入ることでモチベーションの維持が難しいのかなと思ったり… また、牛や豚の解体しているところなんかも、今自分たちが食べている肉はこういうことを通して届いてるということを改めて認識できた。			
	全部	335P (40分)		2010/04/19 22:59:59

くま ☆☆☆☆☆	気晴らしに３０分、写真集なのですぐ読めました。 自分はなんて小さな人間なのだろうと感じ、 読み終えた後はやる気がアップしました。			
	1-333	333P (30分)		2010/04/19 11:46:03

ＴＯＰへ

生物と無生物のあいだ

著者名	福岡伸一	発行年	2007年
出版社名	講談社現代新書	ページ数	260ページ
値段	740円	ISBN	978-4061498914
コメント	ダイナミック・イクイリブリアム＝動的平衡。この着眼から社会というものをとらえてほしくて、リストに加えました。分子レベルで見た私たち生命体は、外界から隔てられた個物ではなく、たまたま密度が高いだけの分子のゆるい淀みに過ぎず、しかも絶えず高速で入れ替わっているそうな。生きているとは、いつも中身を入れ替え続けているということ。 「秩序は守られるために絶え間なく壊されなければならない」 そうなのか！ 興奮しました。これは生命体の理解だけでなく、社会や組織といった「人のあつまり」を理解するときにも使える、と。そんなふうに生命体の話としてでなく、社会や国家に応用できないかと虎視眈々たるスタンスで臨むと、社会工学的にも実り多いかと思います。第９章だけでもぜひ。		

読者投稿欄

コメント登録

ペンネーム お勧め度	コメント			
	読んだ場所	読んだページ数（時間）	立ち読みポイント	投稿時間
くらげ ☆☆☆☆	学校で菌類を生物として教わったとき「あれ？命ってなんだっけ？」と思った。どうも資料集の胞子の絵なんかを見ても「生き物」という感じがしなかったからである。その時は「生物の中に菌類は含まれるという定義なんだ」と納得して、思考放棄した。 少しして今度はウイルスを教えてもらったときも「なんかグレーゾーン」として、やっぱり思考放棄したものの、もやもやした感じが残ったことを覚えている。 このもやもやに程よく答えてくれる本としては最適だと思った。 途中で科学者同士の研究話になって（これはこれで面白いのだけど）本題と逸れてしまうのだけど、シュレディンガーの「なぜ原子はそんなに小さいのか？」という問にまた目が覚める思いがした。 他の人の感想を見てると、最終章は読むべきみたいなので、また読もうと思います。			
	1-151	151P (100分)	35-38, 137-138	2010/08/19 01:01:33
布団が敷いてある ☆☆☆☆	他の方が立ち読みポイントにされていた部分をちょっと読んでみました. 科学者の貪欲さはすごいと思った．業績がかかっているから当然といえば当然なのか. でも今の自分にはそこまで汚い手を使う必要性が理解できなかった，はたしていつかわかってしまう日が来るのだろうか.			
	100-116	17P (20分)	100-116	2010/08/11 15:02:43
	私は生物分野に関して全くの素人であるため、まずは「ウィルス」の奇妙さに驚かされました。題目である「生物と無生物のあいだ」という言葉がマッチしている存在で、先が気になる内容でし			

マカロニぺんぎん ☆☆☆☆	た。 しかし、途中の学者らの話は個人的につまらなく感じてしまいました。再び面白くなるのは、お勧めポイントのあたりからです。			
	全部	285P (300分)	8章	2010/08/06 00:11:39

hk ☆☆☆☆	研究者の仕事の一部を歴史を踏まえてみることができた。 同じ理系でもこういった世界があるのかと感じた。 難しい話ではあるが、わかりやすく解説されており、とても面白いと感じた。			
	3-134	131P (150分)	64-82	2010/07/27 14:40:04

unknowoman ☆☆☆	研究者って大変ですね。もっと研究者がお金もらえるような仕組みを作ってほしいもんだ。 もう難しい話はさっぱり頭に入ってこなかったけど、いやはや大学１年の教養のときに読んでおけばなぁ。教養の数学やら物理のハナシが絶望的にわからずあきらめていたけど、どういった形で使われるのかがわかってたら、もうちょっとがんばれた、、、かも？ 一週間だけでいいから白衣着て、ちまちま作業するいわゆる研究者になってみたいなぁ。この人達みんな頭いいのねぇ。			
	すべて	260P (100分)	第五章	2010/07/12 18:00:16

つばくろう ☆	いかにも東工大生が喜びそうな本だった。どういう実験をしたかや、どういう仕組みになっているかが詳しく説明されていてそういうのが好きな人にはたまらない本だと思う。しかしそういう本の面白さがまったくわからない自分とってはつまらない本であった。			
	1-285	285P (200分)	特になし	2010/07/06 00:35:40

asce ☆☆☆☆	“動的平衡”と読み比べると、さらに面白いかも。 参考程度だが、 「動的平衡という言葉を使いたい」と文中で言ってるし、こっちのほうが先駆けっぽいです。			
	152-169	18P (20分)	152-169	2010/07/05 18:34:19

ushiushi ☆☆☆☆	個人的には動的平衡の方が好き。 ただ生物学の面白さをうまく伝えていうると思う。科学としての生物学だけでなく風景の描写など読み物としての価値もあると思う。 ただその点で僕は動的平衡のほうが好き。			
	すべて	260P (260分)		2010/06/29 15:00:23

mnts ☆☆☆☆	DNAの詳細が徐々に解き明かされていく様子も面白かったのだが、それ以上に各研究者の個性が興味深いなあと思った。ついでに研究者間の攻防らしきものも。 研究者も所詮人間。研究職も結局は権力やら名声やらが重視されるギトギトした世界なんですね。			
	1-160	160P (100分)		2010/06/29 13:14:10

Apollo ☆☆☆☆	エントロピー第二法則。すべての秩序を死に追いやる残酷な法則。それから逃れるには自ら秩序を壊すしかない。それが生命の営み。故に今日も飯が美味い。 そうそう、残酷といえば科学者って結構残酷なことしてますよね。いろいろと。			
	1-272	272P (200分)		2010/06/28 18:41:01

B4たかし ☆☆☆☆	DNAの解明の裏に，こんなドラマがあったとはね. 科学の答えは一つに定まっても，解法は何通りもある．そして，その解法は必ずしも全てが手放しで薦められるものじゃない，と.			
	100-140	41P (75分)		2010/06/22 12:01:07

まー ☆☆☆☆	初めてのツマミ読み。 とりあえず気になった章だけ読んでみました。 科学者の意地汚さ。 演繹と帰納が合わさり、理論が確立される。 う～ん先が気になってきた。			
	100-116	17P (10分)	100-116	2010/06/16 16:09:27

DAIKINエアコン ☆☆☆☆	肝心の生物と無生物がらみの話は全然楽しめなかった・・・. が，彼の学術界に対する意見はとても面白い. 「たこつぼ」の表現は秀逸だと思う．タイトルとは全然関係ないところで楽しんだ.			
	1-150くらい	150P (90分)	50-100あたりかな？	2010/06/12 00:23:23

富士駿河 ☆☆☆☆	中学生の時、生物のテストで「生物とは何か、何が生物か」という問題が出たことを思い出した。 「動的平衡にある流れである」という意味を、「科学的に」理解できたかどうか確かではないが、 「文学的」には結構分かった気がする。 科学者たちの研究ストーリーは、僕も好きです。			
	3-99、134-186ページ	150P (120分)	152-186ページ	2010/06/06 20:47:32

溪華 ☆☆☆	生命とは何か？それは自己複製するシステムである。 これは社会科学にも用いられているが、本来の分野でどのように語られているのかを垣間見る事ができた。文系では手に取りにくい、読みにくい話を身近にさせてくれた。			
	すべて	260P (180分)	108-133	2010/05/24 14:15:25

江戸川 ☆☆☆☆☆	生物すごい。自分すごい。 と思えるオドロキの仕組みがわかりやすく書かれている12,14章がオススメ。 研究の問題点やら裏話（ワトソンやクリックの話とか）が書かれている他の章も十分に面白く読めます。			
	全部	260P (180分)	12章,14章	2010/05/21 17:55:23

Coppet ☆☆☆☆	研究していくとは何か、を考えさせられた。 生物と無生物のあいだを探索していく過程はリアルに迫っており、説得力があった。			
	3-99ページ	97P (60分)	29-31	2010/05/18 12:35:41

7boys ☆☆☆☆	「研究とはきわめて個人的な営みといえるのである」 個人的な営みが積み重なった時、そこに新しい真実が生まれるのだとわかる。 分野に関わらず、研究に関わる全ての人に読んで欲しいと思った一冊。			
	all	285P (240分)	47-63	2010/05/06 10:44:33

komu ☆☆☆☆	最後の方でやっとでできた「遺伝子を一つ失ったマウスに何事も起こらなかったことに落胆するのではなく、何事も起こらなかったことに驚嘆すべきなのである。」という、至極当然の言葉にホッとしました。			
	3-12、117-169、255-285	102P (40分)	271、272「	2010/04/30 18:16:44

かずT ☆☆☆☆	筆者は遺伝子に関する研究を行っているうちに、生物を機械と同じように扱っていては理解できない現象に直面する。 また狂牛病の発症メカニズムなど人体の様々な現象について分子生物学的に分析しており、そのような学術的な点から見ても面白い。			
	1-272	272P (200分)	187-203	2010/04/27 12:36:55

1412 ☆☆☆☆☆	帯にあるような科学ミステリーだけではなく、科学的な発見に伴う科学者たちの人間臭いエピソードも面白かった。			
	1-260	260P (200分)		2010/04/26 18:01:57

atom ☆☆☆☆	動的平衡で作者に興味をもったので読んでみた。 基本的に動的平衡で書かれていた内容とさほど変わらないと 感じた。ただ、より詳しく書かれているのはこちらの方か。 研究者の裏事情みたいなものが描かれているところが面白い。			
	3-63 100-203 255-273	184P (60分)	152-203	2010/04/24 22:59:12

sky ☆☆☆☆	——生命とは何か。 この問いに対する答えを導くことが本書の目的となっている。 まず初めにプロローグでは、この問いの答えとして「自己複製を行うシステム」と述べられている。 これはDNAの構造からの見解であり、20世紀の生命科学が到達した一つの答えである。 この答えを説明するために、筆者の生い立ちや科学者たちの人間模様などを交えながら生命科学の発展について語られ、そこから細胞の仕組み、働きについての説明にシフトしていく。 そしてあるDNA情報を排除したマウスを使っての実験結果より、最後に筆者は生命に対する別の答えを提示する—— 正直、プロローグと最後の章さえ読めば内容はつかめるかなと思う。結論自体は納得できるものだったので、こういった考えもあるんだなと見解を広げるものとしてちょっと読んでみると良いかも。 しかし一番印象に残ったのは、「縁の下の力持ち」の英訳として「an unsung hero="歌われることなきヒーロー"」とあったのが、センスがあるなと感心した。（ただこれは別の本からの引用だったりするので、直接筆者のセンスに結びつくものではないのだが…）			
	3-133,255-285	160P (120分)	第１５章	2010/04/20 12:47:02

rs ☆☆☆	研究者の成果を審査するのに同じ分野の同じ部分を研究している人が審査するので、横取りすることができ、最初に発見した人が日に当たらないで歴史から消えてしまうのは残念なことだなと感じました。			
	100-133	34P (30分)	100-133	2010/04/19 12:22:42

ＴＯＰへ

図書一覧

	書名 ▼	コメント数 ▼	最新投稿時間 ▼	☆のトータル ▼	☆の平均 ▼
1	FREE	32	2010/08/18 13:21:36	107	3.3
2	プライスレス	7	2010/08/05 21:33:58	24	3.4
3	貨幣の経済学	13	2010/08/10 13:27:00	39	3
4	マネーの進化史	7	2010/08/06 15:46:30	17	2.4
5	アダム・スミス	22	2010/08/19 04:59:36	71	3.2
6	いまこそ、ケインズとシュンペーターに学べ	5	2010/08/06 15:41:56	12	2.4
7	使える！経済学の考え方	10	2010/08/03 11:14:36	33	3.3
8	ブラック・スワン 上・下	10	2010/08/19 05:28:19	37	3.7
9	たまたま	19	2010/08/18 11:26:09	67	3.5
10	アニマルスピリット	14	2010/08/06 12:36:14	41	2.9
11	人でなしの経済理論	9	2010/08/13 04:58:39	23	2.6
12	実践行動経済学	3	2010/06/24 09:21:51	9	3
13	行動経済学	9	2010/08/06 14:53:05	32	3.6
14	予想どおりに不合理	18	2010/08/18 23:31:50	68	3.8
15	経済は感情で動く	28	2010/08/18 15:29:17	111	4
16	ヤバい経済学	16	2010/08/18 15:33:14	54	3.4
17	なぜ人は市場に踊らされるのか？	17	2010/08/24 09:50:08	51	3
18	大相撲の経済学	15	2010/08/15 16:02:26	57	3.8
19	最底辺の１０億人	5	2010/08/08 15:36:33	18	3.6
20	民主主義がアフリカ経済を殺す	6	2010/07/06 11:55:47	13	2.2
21	世界を変えるデザイン	12	2010/08/18 22:18:05	36	3
22	チェンジメーカー１・２	30	2010/08/16 10:38:36	104	3.5
23	未来を変える80人	11	2010/08/13 02:05:57	29	2.6
24	国をつくるという仕事	15	2010/08/13 04:51:58	54	3.6
			2010/08/10		

25	「社会を変える」を仕事にする	20	17:48:42	63	3.2
26	「２０円」で世界をつなぐ仕事	21	2010/08/14 21:58:51	69	3.3
27	地球のハローワーク	21	2010/08/19 05:27:25	86	4.1
28	生物と無生物のあいだ	24	2010/08/19 01:02:10	92	3.8
29	動的平衡	27	2010/08/18 12:22:29	111	4.1
30	ローマ人の物語ハンニバル戦記 上・中・下	4	2010/08/17 23:10:40	18	4.5
31	決闘裁判 世界を変えた法廷スキャンダル	7	2010/08/18 16:31:28	19	2.7
32	死刑執行人サンソン	31	2010/08/18 13:45:13	126	4.1
33	怖い絵 １・２・３	27	2010/08/16 16:19:36	88	3.3
34	ファッションから名画を読む	23	2010/08/18 23:55:51	72	3.1
35	暗号解読 上・下	26	2010/08/19 00:37:14	109	4.2
36	戦争広告代理店	18	2010/08/06 15:36:02	77	4.3
37	カラシニコフ　・	21	2010/08/16 13:39:46	86	4.1
38	オバマ大統領就任演説	14	2010/08/18 15:35:28	49	3.5
39	ルポ 貧困大国アメリカ　・	36	2010/08/18 23:44:53	135	3.8
40	金融大狂乱	3	2010/06/08 12:51:06	14	4.7
41	物乞う仏陀	26	2010/08/18 13:54:01	105	4
42	絶対貧困	19	2010/08/18 16:39:24	75	3.9
43	ITとカースト インド・成長の秘密と苦悩	10	2010/08/13 05:29:17	37	3.7
44	カブールの本屋 ーアフガニスタンのある家族の物語	7	2010/07/03 16:05:12	21	3
45	アフリカ・レポート	18	2010/08/18 14:19:12	68	3.8
46	ルポ資源大陸アフリカ	7	2010/08/11 13:52:05	26	3.7
47	中国 巨大国家の底流	10	2010/08/18 23:19:11	37	3.7
48	100年予測	10	2010/08/06 20:17:51	34	3.4
49	日本列島の２０億年	25	2010/08/11 16:30:20	93	3.7
50	武士の家計簿	27	2010/08/24 09:58:43	96	3.6
51	トランクの中の日本	21	2010/08/16 06:57:25	89	4.2
52	ついこの間あった昔	12	2010/08/18 15:17:43	42	3.5
53	任天堂“驚き”を生む方程式	19	2010/08/11 15:09:05	68	3.6
54	奇跡のリンゴ	15	2010/08/14 04:49:56	59	3.9
55	なぜ君は絶望と闘えたのかー本村洋の3300日	18	2010/08/16 22:02:04	74	4.1
56	反骨心	20	2010/08/18 16:11:59	61	3.1
57	ナビゲート！日本経済	5	2010/08/17 13:12:41	10	2
58	未来思考	15	2010/08/18 12:30:33	50	3.3
			2010/08/24		

59	日本人の知らない日本語１・２	67	10:02:58	291	4.3
60	47都道府県 これマジ？条例集	22	2010/08/18 16:31:51	61	2.8
61	うちのとこでは	22	2010/08/18 16:20:05	67	3
62	日本の路地を旅する	7	2010/08/18 16:18:48	20	2.9
63	四万十日用百貨店	12	2010/08/18 16:24:31	41	3.4
64	藤森照信、素材の旅	17	2010/08/16 13:22:59	59	3.5
65	自然な建築	24	2010/08/14 13:50:38	83	3.5
66	コミュニケーションデザイン	21	2010/08/18 16:52:14	80	3.8
67	プレイ・ジョブ	27	2010/08/24 10:08:36	93	3.4
68	アイデアのちから	28	2010/08/18 22:57:31	112	4
69	ギャシュリークラムのちびっ子たち	31	2010/08/16 06:10:24	103	3.3
70	山口晃作品集	29	2010/08/18 13:20:58	97	3.3
71	Blue-中村祐介画集	35	2010/08/18 15:11:33	140	4
72	テルマエ・ロマエ	37	2010/08/19 05:18:39	142	3.8
73	のぼうの城	14	2010/08/24 10:05:58	53	3.8
74	小太郎の左腕	14	2010/07/25 12:22:38	43	3.1
75	哄う合戦屋	13	2010/07/27 17:15:45	46	3.5
76	へうげもの １～10	43	2010/08/18 06:40:26	153	3.6
77	天地明察	18	2010/08/13 11:33:01	89	4.9
78	プリンセス・トヨトミ	15	2010/08/18 03:52:23	58	3.9
79	有頂天家族	13	2010/08/02 16:27:06	53	4.1
80	１Ｑ８４ BOOK1・２・３	18	2010/08/19 01:32:00	77	4.3
81	猫を抱いて象と泳ぐ	16	2010/08/05 15:08:04	59	3.7
82	サハラ、砂漠の回廊	20	2010/08/16 13:36:07	71	3.6
83	東京Ｒ不動産１・２	33	2010/08/14 04:37:45	115	3.5
84	シブすぎ技術に男泣き！	29	2010/08/18 18:28:01	98	3.4
85	鹿男あをによし	18	2010/08/18 15:40:23	78	4.3
86	神去なあなあ日常	12	2010/08/13 11:28:49	49	4.1
87	死神の精度	18	2010/08/19 04:56:47	69	3.8
88	ゴールデンスランバー	12	2010/08/18 21:37:41	51	4.3
89	百年の家	20	2010/08/16 06:24:34	77	3.9
90	これからの「正義」の話をしよう	9	2010/08/24 09:46:47	42	4.7

ローマ人の物語ハンニバル戦記 上・中・下

著者名	塩野七生	発行年	1993年
出版社名	新潮文庫	ページ数	581ページ
値段	1,200円	ISBN	978-4101181530
コメント	カンネからザマへ。戦術の天才ハンニバルが、ついにその牙を折られる時が来る。あれほどに鮮やかな包囲全滅作戦をあまた成功させてきた男が、まさにその同じ技を敵のスキピオにかけられて。 「ハンニバルの不幸は、優れた弟子が敵方に出てしまったことであった」（下巻83ページ） ドラマティックな記述は一行もない。なのに、男たちの覇気と無念が、ありありと迫る。加えて、政治の要諦についての、本質を衝いた洞察。おじさんたちの愛読書ナンバーワンであるのもうなずける。ただ、そこは社会工学生たるもの、批判的に読まないと（蛇足ながら、この批判的スタンスは、同じくおじさんたちの愛読書である司馬遼太郎先生に対する時も必要）。 紀元前。ほんとにほんとに遠い昔の昔の象部隊のとどろきに思い馳せつつ。		

読者投稿欄

コメント登録

ペンネーム お勧め度	コメント			
	読んだ場所	読んだページ数（時間）	立ち読みポイント	投稿時間
マカロニぺんぎん ☆☆☆☆	かつて高校生の時「世界史」の授業で習った言葉が次々に飛び出してきます。スキピオ、ポエニ戦争、属州などなど・・・。高校時代には淡々と学んでいたそれらの内容が、楽しくスラスラ読めるのは横書きが縦書きに変わったという理由だけではないと感じられます。 時折地図やら、表やらが出てきますが図はそこまで多くはありません。個人的には「資料集」的な側面をもっと増やしてもよかったと感じられました。			
	上	151P (120分)	112-116p	2010/08/17 23:10:40
nao ☆☆☆☆☆	派手な描写はなく、史実を淡々と記述している。それゆえ、ローマ史の持つ面白さが直接伝わってくる。まさに、オトナのための歴史書だと思う。			
	上1－下207	620P (300分)	中103－116	2010/08/16 20:23:14
Apollo ☆☆☆☆☆	つまみ食いをする気でしたが、気づいたら全部読んでしまいました。 ローマとカルタゴの戦いを軸にこの頃の地中海世界の歴史が描かれています。淡々と事実を追っているようで実は熱いです。うまく表現できませんが、読めばわかるかと思います。多分。 いやーこれいいですよほんと。みんな読みましょう。小説もいいけど本物の歴史も面白いですよ！ イタリアの地理に疎い方は地図を脇においておくことを推奨します。しかし、２千年以上も前の都市も道も（中身は違えど）そのまま残ってるってのもすごい話だ。			
	上1-下207	620P (240分)		2010/06/21 14:33:18

つて ☆☆☆☆	ハンニバルはスペインを起ち、不可能と思われたアルプス越えの行軍の末、イタリアへとたどり着く。 奇襲。 謀略。 圧倒的な兵力差の中、いかにハンニバルが戦ったか、そしてローマが応戦したかがわかった。			
	中 14-262	248P (140分)	3章	2010/05/11 11:40:45

TOPへ